



2015年(平成27年)
7月号(No. 842)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

平成27年度通常総会	
新役員を承認後、理事会で小林政志会長を選出	1
会長退任にあたって	4
会長就任にあたって	5
平成26年度事業報告	6
110周年記念シンポジウム	
「御嶽山噴火！」開催される	14
東西南北	15
活動報告	17
山研委員会	
創立110周年記念事業	
日本三百名山登頂シリーズ④	18
Climbing&Medicine・69	19
支部だより	20
北海道支部	
図書紹介	20
「山岳」第百十年(2015年)発刊のご案内	21
図書受入報告	22
新入会員	23
会務報告	23
ルーム日誌	26
会員異動	26
INFORMATION	26
編集後記	27

▶ 日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時
夏季休業……………8月8日～16日

平成27年度通常総会

新役員を承認後、理事会で小林政志会長を選出

平成27年度通常総会が6月20日午後2時から東京・六番町の主婦会館プラザエフで開かれた。会員138人が出席し、①平成26年度事業報告②平成26年度決算報告③平成27・28年度役員選任について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認された。総会終了後、臨時理事会を開き、会長に小林政志理事を選出した。(事業報告等の詳細内容は別掲)

■森会長挨拶 残念ながら財政改革は次期執行部への課題に

冒頭、森武昭会長は次のように挨拶した。

「就任にあたってYOUTH CLUBと支部活性化を2本の柱として会員増と次期リーダーの育成に力を入ると表明した。成果があり昨年度は新入会員が250人の大台に乗った。しかし、残念ながら亡くなられた方、退会される方

も多く、会員総数は横ばい。現在5100人弱。会費を請求できる会員は4600人くらい。26年度は600万円強の赤字で、大変厳しい状況だった。会員増をテーマに新たなプロジェクトチームを立ち上げて、抜本的な改革を行なうとした。1年半にわたって検討したが、残念ながら素案をお示しすることができなかった。次期執行部にお願ひすることになる」

■事業報告・決算報告 会員動向について詳細説明

この日の総会には1793人から委任状が提出された。また、1483人が議決権を行使された。出席者138人を合わせ3414人となった。総会通知を発送した時点で在籍者5023人の68.0%で、会員の過半数を上回って総会は有効に成立した。

議案審議を開始した。高原三平総務担当常務理事が26年度事業報告を、吉川正幸財務担当常務理事が同決算報告を説明した。

〔事業報告〕登山振興事業は、海外登山助成制度によって、東京農業大学山岳会ムスターグ・アタ登山隊、学習院大学輔仁会山岳部インド・ヒマラヤ隊など5隊に助成。英文『ジャパニーズ・アルパイン・ニ

ユース』15号を発行した。また、雪山天気予報、「山の日」制定プロジェクト、インターネットによる「親子で楽しむ山登り」などの情報発信登山教室・雪崩対策講習会など多彩な活動を実施した。山岳環境保全事業の森づくり活動は全国32支部のうち11支部で実施中。110周年記念事業として26年度に行なったのは学生部女子隊/マンセイル峰などの海外登山、『日本三百名山』発行など。27年度に向けて準備しているのはブータンヒマラヤ・トレッキング、日中韓3国学生交流登山、『改訂 新日本山岳誌』第2版発行、山岳医療シンポジウムなど。

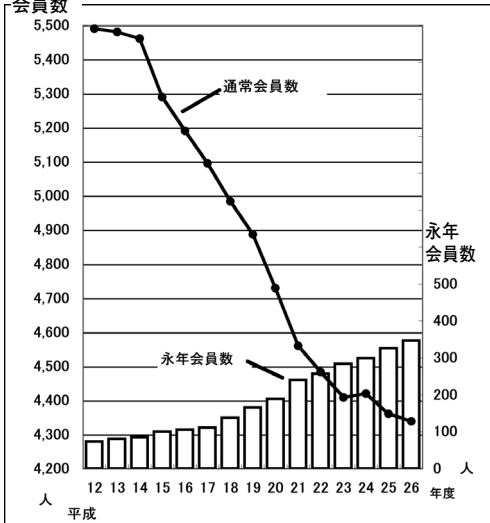
会員動向の詳細報告があった。平成12年度から26年度までの会員数を示したグラフによると、26年度は258人が入会したが、28

2人が退会。入会・退会ともこの15年間で最多だ。70歳以上の会員が多く、5～10年先には退会者がぐっと増える。会員数を維持するためには300人の入会者が必要となる。また、会員が減っているにもかかわらず永年会員が着実に増え、財政圧迫の要因となっている。

■経常収支は623万円の赤字

〔収支決算〕 会費収入が増加に転じ、寄付金・助成金収入も大きく増加したことから、日本山岳会として過去最大級の収益・費用を計上した。前年に続いて経常損益は赤字となり、赤字幅は縮小したものの、依然として厳しい財政が続いている。経常収益は1億243

永年会員数と通常会員数の推移



万円(前年度比2・0%減)。経常外収益で110周年記念登山隊への寄付金などが計上され、総額は1億1088万円(6・1%増)となった。入会者の増加により、入会金は、484万円(19・2%増)、会費は5320万円(0・8%増)。寄付金、補助金・助成金などの収入は、経常・経常外を合わせ3450万円(25・4%増)だった。

経常費用は、『山岳』『山』など出版事業で経費増となったが、YOUTH CLUBなどで減少し全体として2・6%減となった。支部事業費は、本部から各支部に交付される運営交付金・支部事業助成金のほか新入会員獲得奨励金、

特別事業助成金を含め3・6%増。上高地山研事業費は、上水道工事のために特定資産の取り崩しが500万円超あり、老朽化による維持費用の増加となっている。

経常収益から経常費用を差し引いた収支(当期経常増減額)は、623万円の赤字となった。赤字幅が、資金流失のない減価償却費・引当金計上額と均衡しているため、かろうじて資金不足に陥らなかった。

創立110周年記念事業は、海外登山基金や登山隊による募金によって資金手当てが行なわれるため、経常外収益・費用として計上することにした。収益はガンガブルナ北稜登山隊などに対する寄付金845万円、費用は1269万円。この結果、経常外損益は424万円の赤字となった。これらの結果、海外登山基金から488万円を取り崩した。

吉永英明監事からの監査報告があった。収支計算書等が正確かつ妥当であり、理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認めると報告したが、個人的意見として基礎的な財務収支を均衡させる改善3ヶ年計画の策定にも留意しつつ運営されるよう要請があった。質疑

応答のあと賛否を求めた。公益社団法人となり、承認は拍手でなく挙手で行なう。一斉に手が挙がった。

■平成27・28年度役員を選任 議決権行使制度を導入

3号議案は、理事・監事の選任の件。今総会から、書面による議決権行使、つまり信任投票ができるようにした。その判断材料として候補者リストにJACでの活動、本人記載によるその他活動内容を掲載した。候補者案に関しては、昨年9月の理事会で基本方針を決定、審議してもらい、理事については3月、監事については4・5月の理事会で、全会一致で決定した。

質疑応答後挙手で採決し、賛成多数で承認。議決権行使権は1483人が行使し、3号議案については1人が否定、3人が一部否定とした。新役員は次のとおり(カッコ内は新任・再任の区別、年齢)。

▽理事Ⅱ大久保春美(新・66)、吉川正幸(再・66)、小林政志(新・65)、勝山康雄(再・63)、神長幹雄(新・64)、山田和人(再・55)、中山茂樹(新・53)、野口いづみ(再・66)、大槻利行(再・52)、佐藤守(再・67)、落合正治(再・66)、山賀純一(再・47)、星征雅(新・43)、

直江俊式(再・38)、谷内剛(新・49)
▽監事Ⅱ平井拓雄(新・70)、重廣
恒夫(新・67)

■報告事項

〔27年度事業計画・予算案〕

27年度事業計画・予算案は、3月の理事会で承認し内閣府に提出されている。その内容を報告した。

公益目的事業として登山振興事業、山岳研究調査事業、山岳環境保全事業を実施する。具体的には、秩父宮記念山岳賞、海外登山隊への助成、機関誌『山岳』など。YOUTH CLUB事業(登山講習会の開催、冬山天気予報の配信および日中韓学生交流登山の実施等)に力を入れる。また、全国11支部で実施されている森づくり事業を推進し、より全国的な規模での展開を目指す。会員向け事業として、創立110周年記念式典を12月5日に開催、全国支部懇談会は4月に四国で開催した。

会員増強・財政基盤検討委員会
で会員増加策と会員制度の検討を進める。一部の支部で取り組んでいる登山教室・会友制度が、会員増加に有効な方策であることが実証されており、これらを視野に入れるなかで検討を進める。また、寄

付金募集について、会員および一般に対し寄付金税制の周知を図る。

会費収入は5460万円、事業収益は2078万円、受取寄付金・助成金等として4099万円を見込んだ。会費収入は、前年度予算よりも減額しているが、現状を踏まえて実現可能な予測値としたためである。経常費用は、『山岳』『山』などの出版事業に1450万円、支部事業費に4510万円、上高地山岳研究所と図書室の維持費を含む山岳調査研究事業費として928万円を計上した。創立110周年記念事業は、海外登山への助成金1000万円、出版事業1420万円、式典費用50万円など。

〔新支部長紹介〕

新しい支部長が紹介された。山形は木村喜代志氏(7734)、栃木は渡邊雄二氏(7914)、埼玉は松本敏夫氏(12047)、千葉は三木雄三氏(14445)、越後は遠藤家之進正和氏(8275)。

■臨時理事会で役員選出

総会終了後、臨時理事会が開かれ、互選により会長に小林政志理事を選出。新役員は次のとおり。

▽会長、小林政志▽副会長、吉川正幸▽同、大久保春美▽同、山田

和人▽常務理事、神長幹雄▽同、佐藤守

臨時理事会終了を待ちきれず午後4時半から懇親会が始まった。しばらくあつて、新役員が会場に現れ、大きな拍手で迎えられた。

小林会長は「山ガールが活躍し、またアウトドア志向が大きな流れとなっている。この流れに日本山岳会についてはついていけない。ギャップがある。私の使命は、このギャップを埋めることだ」などと話した。小倉董子会員が音頭をとって乾杯し、和やかな歓談を続けた。

■質疑・応答 神奈川に支部設立の機運高まる

俵山守男会員(9742) 説明資料の表記方法を工夫してほしい。
山本良三会員(5768) 3号議案に反対する。ある会員を理事として推薦したが選出されなかった。その理由を聞きたい。役員選出は、公選制にすべきだ。自薦・他薦を含め立候補してもらったらい。

森会長 その会員には別の役職についてもらい、大所高所から会をリードしてもらいたい。公選制については従来議論があるが、メリット・デメリットがあり難しい。意見として承りたい。

臼木博信会員(12416) 候補者は、どのような基準で決めているのか。ひとつのグループが実権を握ると、ずうっと続く。目先は変わるが、内容は同じだ。

森会長 推薦の基準は、理事会で明確に申し上げている。会の現状に鑑み、ひとつはYOUTH CLUB・支部活性化を2本柱とし、喫緊の課題である財政基盤の確立を実行する。もうひとつは会全体を取りまとめるにふさわしい、そういう方だ。

橋本清会員(6066) 会員のみなさんに情報公開したい。元会長・副会長のなかの多くの方から意見を聞いた。それを3月31日に森会長に会って伝えた。

森会長 3人とお会いした。聴く耳は持っていると思うている。

有元利通会員(9703) 事業計画に支部会計の適正化、応援体制の確立、新支部設立の推進などがある。具体的に説明してほしい。

吉川常務 支部の会員増等の特別事業に助成している。今年は5支部に支給することにした。9月には支部合同会議を開く。ノウハウを披露してもらい、全国に広げパワアップしていきたい。

森会長 支部がないのは東京23区と神奈川県だ。神奈川県で設立の機運が生じており、できれば今年度中に立ち上げたい。

古市進会員(10959) 会員向けの事業として『山』だけでなく、『山岳』も重視してほしい。

吉川常務 『山岳』は共益事業ではなく、公益目的事業の登山振興事業として取り上げている。どちらも重要な事業だ

植木淑美会員(12895) 貸借対照表の未収会費450万円には除籍対象者の会費も含まれるが、もう資産といえないのではないかと。
吉川常務 会費を3年間滞納すると除籍となる。3月末で2年滞納している会員が除籍対象者となる。84人いた。未収会費として計上されている。理事会で報告あったのち催促した結果、72人に減った。

長田義則会員(5465) 27年度予算で事業収益2078万円、受取寄付金等4099万円とあるが、安定的なものなのか。会費に依存しないで寄付金などにも期待したい。
吉川常務 安定したものではない。関西や宮崎などで周年記念事業を支部会員の寄付で実施する。積み重ねると、こうなった。(高橋重之)

会長退任にあたって

このたびの総会をもって会長職を退任いたしました。この2年間、会員の皆様に支えていただくとともに、役員の皆様の尽力により職責を果たすことができ、感謝申し上げる次第です。

私は、就任にあたってYOUTH CLUBと支部活性化を柱として、会員増強と次期リーダーの育成に積極的に取り組むことを表明しました。YOUTH CLUBは前任者の尾上元会長の発案でスタートし、明るい兆しが見えたところで私がバトンを受け取りました。この2年間でさらに明るさが増しました。学生部が活発な活動を展開し、110周年記念事業として、昨年は女子隊がムスタンの未踏峰に挑戦し、登頂を果たしました。今年は、男子隊がカンチエンジュンガ山群の未踏峰に挑戦することになっています。青年部も国立登山研修所と連携して研鑽を重ね、次期リーダーの育成を着実に進めています。初心者向けのワンダーフォーゲル部では、参加希望者が多く活況を呈し、新入会

会員番号9620 森武昭

員も着実に増えていきます。

一方、支部活性化では、支部に所属する新入会員に入会金の一部を還元する制度や支部活動に審査付の特別補助の制度を導入しました。私は在任中、支部からの招きには極力出向きました。そこでは、各支部が実情に応じて、いろいろな取り組みを行なっていることを肌で感じることができました。新入会員の増加にも大いに寄与していただき、特別補助の申請も昨年度は4支部に助成しました。今年度は年度当初ですでに6件の申し込みが来ています。このような流れを受けて、昨年7月から支部活性化プロジェクトチーム(PT)を支部事業委員会という恒久的委員会に格上げし、今年度からは委員も増強して、より強固なものにしたいと考えています。

この2年間の大きなニュースとしては、当会が提唱した「山の日」の祝日法案が多くの皆様の尽力により国会で成立し、来年から8月11日が祝日となることです。当会でも、これを受けて「山の日」制定PTを「山の日事業委員会」と改組

し、今後の国民的運動の展開に寄与していくことにしています。また、日本山岳協会が公益法人に移行したことを受けて、登山界全体の今後のあり方を協議し、2014年3月で当会が所属していた東京都山岳連盟には東京多摩支部が加盟することになり、日本山岳協会と当会は新たな協力関係を構築していくことを確認しました。その後も継続して、「山の日」制定や自然保護関係で定期的に会合を開催し、今回のネパール大地震の義援金募集でも他の山岳団体とも歩調を合わせて行なっているのは皆様ご承知のとおりです。これからのわが国の山岳団体の体制に大きな指針を与えるものと思われれます。

当会は、今年で創立110年を迎え、現在いろいろな周年行事が進行中で、12月5日に年次晩餐会を兼ねた記念式典を開催します。このように長い歴史を誇る当会にも少子高齢化の大きな波が押し寄せ、喫緊の課題となっています。会員数は5000人強を維持していますが、平均年齢68歳という数字が、その危機を如実に表わしています。先に述べたとおり、いろいろな努力により新入会員は着実に

会長就任にあたって

増加傾向にあります。しかし、物故者や退会者(高齢によるものが多い)がそれを若干上回っているのが現状です。70歳台後半に大きな会員数のピークがあることを考慮すると、当会の組織運営上、これから5年間に大きな勝負所となることは間違いありません。私の任期中にも財政基盤PTで対応を検討してきましたが、会の基本理念にも関係する大きな課題であり、道半ばで次期執行部にバトンタッチせざるを得なかったのは大変残念の一語につきます。当会の良き伝統を継承しつつ、一方で社会状況に対応した柔軟な制度を導入し、幅広い層で構成される会にすべきだと個人的には思っています。

これから新執行部が発足し、この多難な課題に取り組んでいくことになりませんが、一番重要なことは、多様な意見がある中で、会がひとつにまとまっていくことです。忌憚のない意見交換は当然ですが、決まったことを着実にかつ迅速に実行していかなければなりません。そのためには、会員の皆様の全面的支援が必要です。

皆様に、新しく発足する理事会への支援をよろしくお願い申し上げます。私の退任の挨拶とさせていただきます。



小林会長

このたびの総会とその後の理事会で会長に選任されました。日本山岳会での活動にはしばらくブラUNKがあり、当会の現状や問題点を把握するのに少々時間がかかりましたが、やつと今、所信が固まりました。尾上元会長、森前会長が意志を持って行なった取り組みは、はつきりとした成果として実証されています。それを基盤にさらなる改革を推進することで、日本山岳会を再生に導き、未来に向かって発展させることができるのではないかと考えています。

おふたりの会長経験者が進めてきた主な内容は、「支部の活性化」と「YOUTH CLUBの強化」です。活発に活動しているところや勢いのある雰囲気には人は集まっ

会員番号7915 小林政志

てくると言われますが、これらの活動により着実に入会者数は増加しました。また、若手会員の成長や次期リーダーの養成についても芽が出てきていると思います。先輩方が築いた成果を基盤にさらなる改革を図るべく、これから進めていく施策の概要をまとめました。

第1の柱は「支部活性化」のさらなる充実・強化です。活動やサービスの質を高めるよう推進し、そのための体制強化も図ります。第2の柱は「YOUTH CLUBの強化」です。YOUTH CLUB B内の青年部、学生部、ワンダーフォーゲル部の体制を強化し、今までの施策をバージョンアップして様々な取り組みを実施します。また、女性が活躍できる場を新たに設けていきたいと考えています。以上の2つの柱を渦の中心に縦方向に据え、それを軸にコマのように渦を強く回して、会員増強を図ります。

そして第3の柱は制度の改革です。時流に合わない制度や規定に手を加えねばなりません。具体的

には、入会制度や規定の見直しを行ないます。この柱をコマのバランスをとる横軸・重心にし、第1、第2の柱の実効を高めます。そして会員増強に加え、事業収入の増加、ひいては当会の財政基盤の安定化を図っていきます。

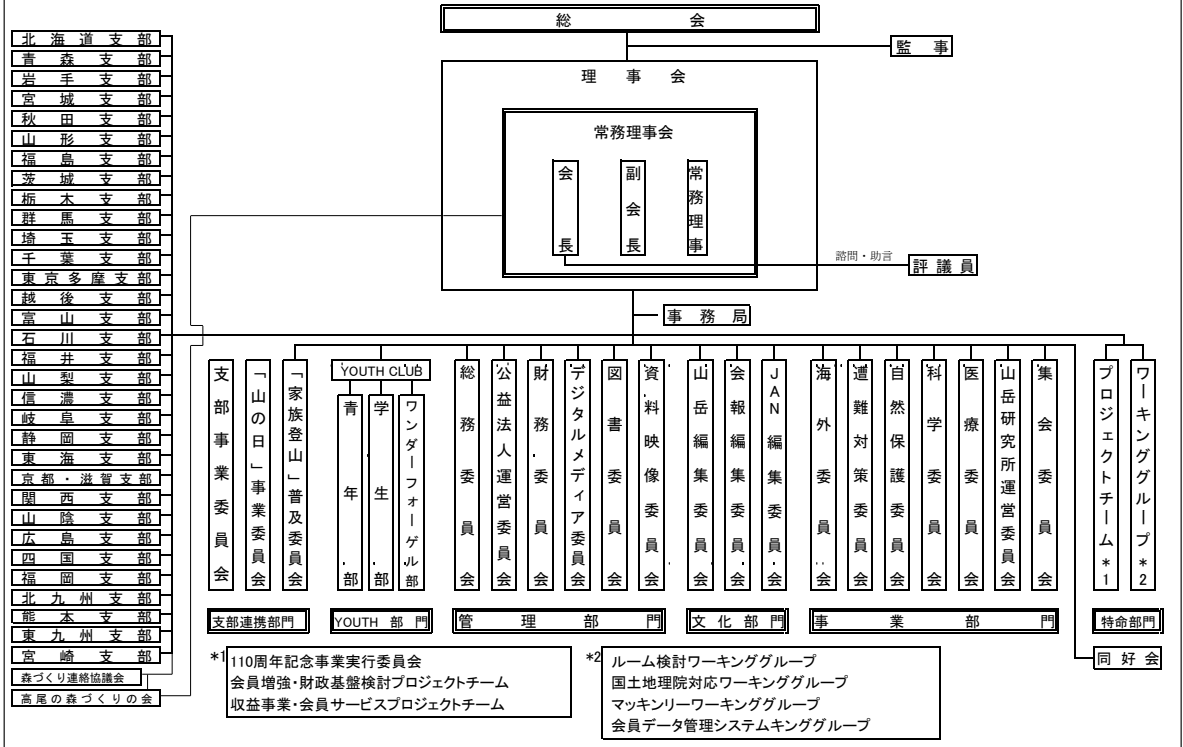
これらを成すためには、中長期を視野に入れた戦略という図面を作り、重点志向と優先順位をつけた実行計画へと落とし込んでいくことが重要です。しっかりと設計図を描くことこそ私の役割と認識し、業務に臨んでまいります。

さて、今年は日本山岳会創立110周年です。文化活動を含めた様々な視点から記念事業が計画され、準備に動き出しています。また、「山の日」が制定され、具体的に事業活動に入る段階となつていきます。これらについてもひとつひとつしっかりと取り組み、山岳ファンの裾野を広げていきたいと思えます。会員の皆様にはぜひ、ご支援とご協力を賜り、一緒に日本山岳会の新生を図っていただくと考えております。

簡単ではありますが、これをもって就任のご挨拶とさせていただきます。

平成27年3月31日現在

公益社団法人 日本山岳会 組織図



現在、YOUTH CLUB及び15支部で行われている。

身体障害者支援登山は当初はごく一部の支部で始められたが、現在は視覚障害者、知的発達障害児及び自閉症者などが健常者と同じように登山を楽しむことを支援し、身体障害者の心身の健康維持に貢献することを目的としている事業である。26年度は支部間の情報交換を目的として情報交換会を実施した。

25年度から国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を得て「親子で楽しむ山登り」と題した親子登山教室のWebサイト(教材)掲載を開始しており、この企画は、支部の活性化と公益活動の向上も期待出来ることから、26年度も継続して実施した。

平成27年に本会は設立110周年を迎える。その準備のため、110周年記念事業実行委員会では「若手会員の育成及び会員の増強と各支部の活性化を図る」との命題を掲げ、そのための事業を企画した。

Ⅱ 山岳研究調査事業については、上高地山岳研究所を利用した上高地における各種登山活動、小規模水力発電の研究などを行っており、上高地山岳研究所が活発な活動拠点として機能している。また、福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、山岳地域の放射線量を前年度に引き続き継続して測定している。さらに、国土地理院が整備する地図における登山道情報の正確性を維持・向上させるため、全国の主要な登山道に関する情報交換を行なう等、新たな活動も進めている。

Ⅲ 山岳環境保全事業については、山地が国土の70%を占める我国において、そこを活動のフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保護は重要課題の一つである。「高尾の森づくりの会」は小学生から大人までを対象にそれぞれ対象者の要望に応じた森づくり活動を進めているだけでなく、「三宅島」、「気仙沼大島」等での活動にも取り組んでいる。それとは別に全国11支部においても相互に連絡を取りつつ森づくりに取り組んでいる。

第1号議案 平成26年度事業報告(案)

要 旨

<概要>

平成26年度は、公益法人移行後3年目を迎え、新制度への移行も円滑に進捗し、民間公益活動の視点から活発な活動を進めることが出来た。

特に、コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立に邁進するため、「公益法人運営委員会」を中心に、各種規程類の整備を進めるとともに、全国32支部とのコミュニケーションの円滑化のため支部会議の充実を図った。

さらに、公益法人化に伴う会計処理の適正化、各種寄付の増加に対応するための必要な規程類の整備に務めた。

I 登山振興事業については、若年層への総合的対策として、平成24年度にYOUTH CLUBの拡充改組を行ない、推進体制の見直しを行なった結果、雪山天気予報の充実、雪崩講習会及び冬山登山指導事業の積極的な展開など従来にも増して活性化を図ることが出来た。

本会が提唱して始まった「山の日」制定運動は6年目に入り、他の山岳団体と協同して進めている「山の日」制定協議会に所属する山岳団体メンバーとして国会での祝日法改正の動きに寄与した。

平成25年4月に発足した超党派の「山の日」制定議員連盟の総会にオブザーバーとして出席し、資料を提供するなどして祝日法改正の動きに寄与した。議連は8月11日を「山の日」とし、平成28年から施行する、などを内容とする議員立法議案を平成26年3月28日に衆議院に提出し、5月23日、平成28年から8月11日を国民の祝日「山の日」とすることが決まった。

海外登山については27年度上期実施を含め5隊に助成、その内、ネパール大地震により出発を延期する1隊を除き、それぞれの隊が大きな成果を挙げた。

一般登山者を対象とする登山教室については、昨今の登山ブーム及び未組織登山者の増加の影響によると思われるが希望者も多く、形態は継続的教室、短期的講習会など様々であるが

埼玉	6月15日 第6回講習会「ハイキングレスキュー講習」で講師は埼玉県岳連遭難対策委員長の瀬藤氏が実施。 10月28日に第7回安全登山机上読図講習会 11月8日現地講習。 1月24日に第10回講演会「油断と過信その思い込みが命取り」埼玉県警察山岳救助隊飯田副隊長による講演で54名が参加した。 2月21日 第8回講習会心肺蘇生法とAED使用方法の実施。
東京多摩	第3期初心者登山教室（4月～6月）/受講生34名、第3期初級登山教室（7月～3月）/受講生25名、第2期初級登山教室（4月～3月）/受講生14名。
越後	6月8日信越トレイル（関田峠～伏野峠）で参加者17名、9月7日信越トレイル（伏野峠～天山水山）で参加者15名、10月5日銀の道（銀山平～駒の湯）で参加者28名であった。 毎回支部会員が10数名参加し、コースガイドしながら植生や地理的・歴史的な説明を行い登山啓蒙を行った。
石川	5月に実施 一般参加者5名ロープワーク研修をクライミングボードと岩場の両方で行った。講師は登攀指導有資格者の会員がボランティアで行った。
静岡	ハイキングセミナーの実施。4月20日寸又峽・沢口山1425m鹿のヌタ場見学などセミナー生14名。6月8日安倍奥・ハ絃嶺1918m シロヤシオ等観察でセミナー生20名。 10月19日安倍奥・大谷崩/頭1999m 大谷崩と崩壊防止・緑化の状況、フジアザミ等の観察 セミナー生30名
東海	中日文化センター・NHK文化センター・朝日カルチャーセンターの3教室で年4期に分け通年開講し、いずれも座学と現地山行。
関西	初心者・中級者・上級者各クラス毎に、共通の3回の座学と、クラス毎に9回の実技講習を行った。延べ参加者員103名。「安全な登山の普及」を目的に、山登りの初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々を一般公募して実施した。
広島	広島・呉・福山・岩国の4地区で毎月1回開催の「里山ハイキング」・「初級登山講座」・「中級登山講座」・「親子安全登山講座」（8月のみ実施）の4講座、10クラスに支部会員から講師・アシスタント講師を派遣した（延べ218名）。受講生は市民が延べ約1,100名が受講した。 広島支部主催で39才以下を対象の「ユースクラブ」を新設して、25回実施し、延べ80人が参加した。
四国	「初心者向け登山教室」平成26年6月～平成27年2月までの毎月1回、香川県（高松市周辺）で実施。2月までの受講生延べ142名。最終回は2月28日から一泊で、大山での雪山安全登山講習会を実施。
福岡	「ハバルフェスタin坊がつる」において、登山講座講師派遣と自然観察会等を担当。2014年4月26日（土）～27日（日）、大分県九重山法華院温泉山荘にて開催。一般参加者：50名
熊本	第12回登山教室 九重連山 5月18日。九重山の横断道路の北にある泉水山から黒岩山の縦走登山を実施。目的のイワカガミや石楠花の花を視察しながら読図や休憩の取り方など学んだ。一般募集 参加者25名。 第3回勤労青少年登山教室 阿蘇鞍岳 7月27日一昨年から始まった青少年のための登山教室、今年は新聞広告や市内各所にポスター掲示したため、若干、参加者が増加した。13名

毎年行われている自然保護全国集会は11月21日に広島市で行なわれ、宮城支部の山地における放射能汚染調査、静岡支部によるリニア新幹線に関する報告等が行なわれた。また、上高地においても一般観光客に対して山岳環境保全のPRや上高地内を案内し、自然観察を行なうネイチャーガイドを実施した。

法人管理については、平成25年10月15日には個人が本会に寄付した場合の税額控除制度の適用に係る証明を内閣総理大臣から受けることが出来た。

これら寄付の増加に適切に対応するため、受入体制の確立を図り併せて規程類の整備を進めた。その結果、寄付金についても多くの申し出があり、付属明細書に記載のとおり総額で3,450万円の実績を得た。

<会員動向>

本会はここ10年以上にわたって、高齢化、会員減少が続いていたが、会員数は平成27年3月現在5036名であり、ここ3～4年間は、ほぼ横ばいとなっている。それまでは毎年100名程度減少していたが、現在は概ね園止めが掛かりつつあり、26年度は258名の新入会員の入会があった。

別表 支部・委員会の活動

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-6 シンポジウム・講演会の開催	秋田	11月22日 岩崎元郎氏講演「健康登山in秋田」を後援。秋田市にぎわい交流館で開催。参加者約180名
	山形	一般市民対象講演会 南極越冬隊長の南極の自然や観測隊の生活の講演会。8月31日一般市民出席者 約80名
I-7 「山の日」プロジェクト	東海	「山の日」制定に向け、山の恵みについて考えようをテーマに山岳関連総合イベント「第2回夏山フェスタ」を愛知県産業労働センターにて6月7～8日開催。主催の実行委員会に全面協力。6650名来場
	山陰	第1回「山の日」を語る米子集会 の開催（8月8日 米子コンベンションセンター）参加者300名
	広島	「ひろしま『山の日』県民の集い」実行委員会の主要メンバーに、加わり、官民一体となってひろしま「山の日」県民の集いを実施してきた。 第13回の26年度は、広島支部は5/31（土）「霧ヶ谷湿原 自然再生地」（下流部2.5ha）の保全活動を行い、6/1（日）には北広島会場（14名参加）と東広島会場（21名参加）で初心者の為の登山教室を行った。
	福岡	「岳人のつどい」山の講演会。2015年2月1日（日）映画「盲目のクライマー」上映とヒマラヤ・トレッキング・スライド会を太宰府市太宰府館まほろばホールにて開催。一般参加者約130名。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-8 インターネット	京都滋賀	支部「ホームページ」による通年の安全登山の啓蒙、登山文化の継承活動。
	DM委員会	会務情報インターネットシステム提供（登山文化資料の公開、登山振興事業情報の周知、登山関係諸公的機関情報の周知支援）
I-9 登山教室の実施	北海道	NHK文化教室主催の登山教室への講師派遣協力
	宮城	地域の登山愛好家に呼びかけ、一般公募登山（登山教室）を3回実施した。
	山形	第1回公募登山7月は鳥海山にて一般参加者17名。10月は月山に於いて一般参加者17名。総計34名

東海	幼稚園児を対象として「親子のふれあい登山教室」10月11日・12日に鈴鹿の尾高山で実施。本年で9回目。11日は33組66名の親子と教師5名支部員15名、12日は59組118名の親子と教師11名支部員15名。「親子で一緒に山に登ると言う体験を通して、感動を分かち合い、絆を深めると同時に都会では味わえない自然体験を」を目的として実施。
京都滋賀	「親子登山教室」5月18日、11月2日、2月25日に実施した。一般参加者45名。地域の親子のための登山教室を開催した。支部会員は、ボランティアで指導者、補助員として参加した。
関西	山の日の山行・・・6月1日、一般の方を対象に子供・孫を含めた「わんぱく探検」を開催した。参加者12名
四国	平成26年9月14日、15日に、徳島県ボーイスカウト連盟と共催で、登山学校を実施した。菅生（すげおい）ロッジで宿泊、野外研修を行ない、翌日は剣山に登った。会員7名、会員外28名。
北九州	「さいわい幼稚園」児童の風師山遠足登山をサポートした。
東九州	「第13回青少年体験登山大会」初心者を対象に山登りの楽しさ、面白さを体験してもらい、登山の普及につなげていくことを目的に、青少年だけでなく、一般の初心者も対象に募集し、1日帰り登山を久住山で実施した。国際山岳年（2002年）以来実施してきており、今年で13回目。（参加者・64名）
宮崎	「こども登山教室」毎年夏休み期間中に実施、本年は小学生～高校生22人を支部会員18人が指導して、自然体験活動を通じ、自然との共存共栄を図り、自然愛護の心、団結・協調性、忍耐力などの育成に努めた。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I—16 登山道整備	青森	「八甲田山遭難防止対策スキーコースポール立て」2月と3月に実施 一般参加者90名。八甲田山登山道整備ボランティアも実施。
	岩手	西岳清掃登山 参加者7名 5月27日、登山シーズンを前にゴミ拾い、登山道整備を実施した。さらに岩手山八合目の小屋管理実施。6名参加 8月2～3日
	宮城	「山の日」制定を記念して泉ヶ岳清掃登山を実施した。
	秋田	「太平山山開き清掃登山」6月9日実施 一般参加者約33名。「太平山歩道整備」11月8日、歩道の刈り払い、ベンチ等の設置を行った。
	福島	年3回、吾妻山、安達太良山における荒廃登山道整備計画に基づき取り組んだが、天候不順により1回のみの実施に終わった。
	栃木	「日光山系清掃登山」を実施。
	埼玉	12月13日・14日秩父 二子山・大持山の清掃登山とヒマラヤ遠征報告会の実施。
	千葉	「新日本山岳誌」改訂版出版のための調査山行（16山）を行った。
	東京多摩	「雲取山石尾根の石積み登山道整備」5月21日・22日、東京都レンジャーとの協働作業として、雪解け後の登山道の石積み整備作業を行った。支部員6名、都レンジャー5名、環境省アクティブレンジャー1名、サボレン4名、計16名参加。11月には同様活動として川苔山清掃協働作業を行った。支部員9名、他11名、計20名。
	越後	公募登山や支部会員親睦登山での清掃登山や、弥彦山雪割草パトロールを実施した。

東九州	座学（1回の講座、1コマ1時間を2コマ）4回、実践講座（1泊2日の山行）2回、計6回の講座初心者を対象に募集、定員30名としたが、応募者多数で34名まで増やして実施。講師は全て会員が担当し、講座の資料等は全て講師の手作りで実施。
集会委員会	6月22日「救急救助研修会」を実施した（通算3回目）。参加者は21名（うち一般参加者は5名）。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I—11 登山指導	山梨	山梨県山岳レインジャー活動 7月から9月 甲州アルプス・大蔵高丸、御坂山地・黒岳、南アルプス・白根三山、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳で5回延べ8日間実施。
	山陰	大山冬山パトロール（2.11及び3.14～.15の3日間 会員3名、鳥取県警2名合同で山頂までパトロール）
	遭難対策委員会	山岳遭難防止セミナー「山岳遭難の実態と救助現場からの声」 開催日：11月25日（火） 場所：東京体育館第1会議室 講師：長野県警察山岳遭難救助隊 宮崎茂男隊長 参加人数：60名
I—12 身体障害者支援登山	茨城	「茨城県 自閉症協会 協力登山」自閉症者協力登山は、6月に支部会員による下見登山、8月2日～3日に1泊2日で全員登山。参加者は自閉症者とその家族25名、ボランティア3名、茨城支部会員6名、合計34名で実施。
	埼玉	「障害者とのふれあい登山」26年4月6日一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と共同主催で第4回ふれあい登山を実施。目的地は秩父の小川町の仙元山と里山歩き。障がい者48名と付き添い45名、日本山岳会埼玉支部会員30名、スポーツ協会2名で実施。平成27年1月10日一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会設立10周年記念式典で埼玉支部のふれあい登山の実績が評価され「功労賞」を受賞。
	東海	「視覚障害者支援登山」：視覚障害者9名を対象とし5月11日奥美濃の無山で実施。支援者26名参加。秋は雨天中止。 「スペシャルオリムピックス愛知との登山」：4月14・15日鈴鹿ハライドにて開催。障害児10名参加
	YOUTH CUB	10月に視覚障害者登山サークル「六つ星山の会」の焼岳登山を支援。今回は青年部が主力だったが、今後はワンゲルも参加予定。身体障害者等社会的弱者に登山の素晴らしさを伝える事を目標とする。
I—14 海外交流事業	海外委員会	海外登山支援体制の一環としてチベット遠征海外登山勉強会を要請に応じて実施できる体制を確立した。
	東海	日中韓学生交流登山隊の派遣。8月6～12日（韓国北漢山国立公園エコ・ラーニングセンター）
I—15 幼稚園児から中学生までの体験登山	宮城	仙台市立愛子小学校が実施した5年生の泉ヶ岳登山に指導員を派遣して協力した。
	栃木	「親子登山教室」を夏休みに実施、一般参加者20名。自然に触れながら親子の絆を深め、他人と協働しながら人格育成の一助とした。
	群馬	群馬県山岳連盟主催「チャレンジキッズプロジェクト」に協力。3月のスノーシュー体験から9月のマチガ沢まで全4回開催 小中学生延べ37人が参加、支部から2人を役員として派遣など
	千葉	児童養護施設「晴香園」（千葉県松戸市）の課外活動（登山）の指導及び協力。①金時山（9月20日） ②陣馬山（2月21日）

		初夏のアカエゾマツ人工林の下草刈りや秋の生長調査の実施。(・下草刈り 7月6日 参加者6人 ・生育調査10月5日 参加者8人)
青森		平成11年以来実施している「白神山地ブナ林再生事業」を津軽森林管理署と協力して実施(6月、11月に一般の協力を得て実施)。本年は一般参加者11名。下草刈りと植樹したブナの生育状況調査を行った。
埼玉		緑の森博物館周辺の森づくり 下草刈り・枝打ち・等を9月28日実施
福井		平成20年より福井県越前町より森づくりのために借りている蔽山の整備を進めている。散策路の整備の為に樹木の伐採と苗木の植樹、花壇整備、草取りなど里山の復活を目指す。定例日以外にも、会員個人による作業が継続されている。11月16日(日)和田小学校の親子を文殊山に引率した。
岐阜		岐阜県林政部治山課との協働による「権現の森林づくり」を実施、26年度作業回数は14回(4月6日～11月23日)で、下刈り、育苗、林床の手入れ。参加者は延べ101名。
東海		「猿投の森づくり活動」猿投の森と東大演習林における森づくりと市民の森林体験のための整備、森の幼稚園(11月8日)、森の音楽祭(10月25日)。
関西		「本山寺山森林づくり」に関して平成24年5月18日近畿中国森林管理局長と「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を締結した。高槻市の「社会貢献の森」にて、関西支部の会員及び一般公募の会員により、毎月1回森林整備、自然環境の保全を行った。26年度は 作業20回・植生調査1回・観察会2回実施、委員会・理事会各1回開催、4/15総会開催 会員・一般会員合計38名
宮崎		「水源の森づくり」田野の森(宮崎市)、ロキシヒルの森(西都市)、野尻の森(小林市) 総面積1.1ヘクタールに広葉樹 2000本を植樹して、毎年3回(7、9、3月)下草払い、枝打ち、補植等の作業を行い、森林の育林・保護活動を実施。そのほか「水源の森づくりをすすめる市民の会」の団体会員としても活動している。26年度は延べ35人で作業。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ-2 山岳環境 保全活動	北海道	「高山植物盗掘防止事業」を実施、実施期間6月1日～10月10日、大雪山系・十勝連峰・監視活動 延べ140回 実人数30名。 日高山脈幌尻岳山岳環境保全協議会と協力し登山者排泄物による山岳環境汚染除去のため2005年からトイレ排泄物人力運搬事業に参加。併せて、山頂、七つ沼カール、トッタベツ岳の清掃も実施。(9月13日-15日 参加者4人)
	宮城	宮城県自然保護課が主催して毎年夏季に実施している栗駒国定公園内の世界谷地湿原保全対策事業に協力するため、5名の会員を派遣した。具体的な作業内容は湿原内のヨシとササの徐伐作業である。
	岩手	姫神山パトロール 年4回 15人参加。最近県外からの登山者が多くなった姫神山の植生の保護、登山道の保全に努めた。
	山形	「鳥海山ワシタカ研究会」鳥海山南麓に於いてイヌワシの動向調査を行う。9月28日 支部会員8名参加。
	岐阜	山岳パトロール 岐阜県森林管理署内で森林保全巡視、環境美化のため会員のうち、登録者が巡視。

富山	「高頭山登山道整備」 5月31日に実施。「播磨祭」記念登山に先立ち、支部会員が登山道整備を行った。
石川	「登山道整備活動」年11回実施(4月～11月) 一般参加16名 金沢、白山、加賀の各市の1ルート登山道の雑草の刈払や看板、ロープの補修や新設等を行った。
福井	越知山登山道の整備。傾斜がきついため、階段(50段)ロープ(50メートル)を取り付ける作業をした。
信濃	ウェストン祭に合わせ事前に行政機関と共に徳本峠登山道の状況調査や整備を行った。
関西	六甲東お多福山復元化活動に参加。大阪府や各市町村が制定している自然歩道を、各自治体と連携して、道標整備や登山道の補修を行った。年間5回実施。
山陰	島根県の出雲地方と伯耆地方の山々の調査を行い、山陰支部創立70周年を目標に「雲伯の山々」(仮称)を発刊予定。
広島	11月29日(土)6名が参加して、聖山山頂付近の景観回復及び環境整備を行った。同日18名が参加して、高岳山頂付近の景観回復及び環境整備を行った。
北九州	「英彦山清掃活動」北九州支部員19人の他、添田町職員、山岳団体等計90人(その内、北九州支部19人)の参加により、ゴミの回収作業を行った。
熊本	第15回・第16回森林保全巡視登山 4月26日(目丸山) 12名 10月4日(高岳) 9名
東九州	登山者の多い九重山系の登山ルートを毎年場所を変えての清掃登山実施(指山観察道)

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅰ-17 山岳自然 観察会の 実施	岩手	自然観察会。仙人峠 6月14日 一般参加者1名、南本内岳9月6日 一般参加者7名。仙人峠では廃れゆく峠道を探索、南本内岳では35種類の高山植物を観察・記録した。
	千葉	「房総ネイチャーハイキング」南房総の富山(とみさん349m)で実施。講師は県立中央博物館学芸員に依頼。県民30名参加。
	東京多摩	「自然観察会」一般市民対象に、8月21日「第5回御岳山レンジショウマ観察会」、1月7日「第5回高尾山シモバシラ観察会」、9月27日「国立四小高尾山自然観察ハイキング」実施。一般参加者83名。支部員は講師、リーダー、サポーターとしてボランティア参加。
	石川	自然観察会を県内の歴史あるハイキングコースで実施(会員の自然観察委員により、コースの歴史的背景や、植物の植生、生息する動物、眺望出来る山並み等を解説)。
	福岡	自然観察登山「イズモコバイモ観察と出雲の里山歴史紀行」2015年3月23日(土)～25日(日)に開催 20名参加。
	熊本	一般募集で集まった登山愛好家を含め、恒例の山の花鑑賞会実施、九重スキー場から彌師岳への登山道の途中で、貴重な花である純白のオオヤマレンゲの花を観賞した。参加者38名
Ⅱ-2 山岳図書 館の運営 及び発刊 事業	山陰	「雲伯の山々」(仮称)の発刊準備・調査(古事記など歴史を絡めて紹介する)
	図書委員会	山岳史懇談会「編集長・辰野勇氏が語る一新生「岳人」がめざすもの」開催 2014年9月19日 山岳図書を語る夕べ「探検家・角幡唯介さんが語る「探検」と「本」」開催 2014年10月3日
Ⅲ-1 森づくり 活動	北海道	支笏湖復興の森づくり。NPO法人支笏湖復興森づくりの会に協力し2007年春から参加の本事業に北海道支部が分担する地域において

北海道	(登山技術研修) ゲレンデを活用した岩登り研修、7-8月には沢登り研修、積雪シーズンに山スキー、スノーシュー登山研修、12-2月にかけて雪崩研修を座学・実習を全道で展開。20-30名の会員が参加。
埼玉支部	全国支部懇談会を秩父市で開催して森会長をはじめ全国の支部から201名が参加した。
関西	支部設立80周年(平成27年)に向けた活動の開始。 ・記念誌の発行準備。 ・記念山行…関西支部県境縦走を毎月1回 ・日で12回実施、海外記念山行の具体的計画書を作成する。 ・記念式典の具体的内容を詰め、『山』への掲載、他支部への案内文書を送付する。 ・80周年記念行事への募金活動を実施する。
他1-6	会報編集 会報『山』のNo.827～No.838を発行した。

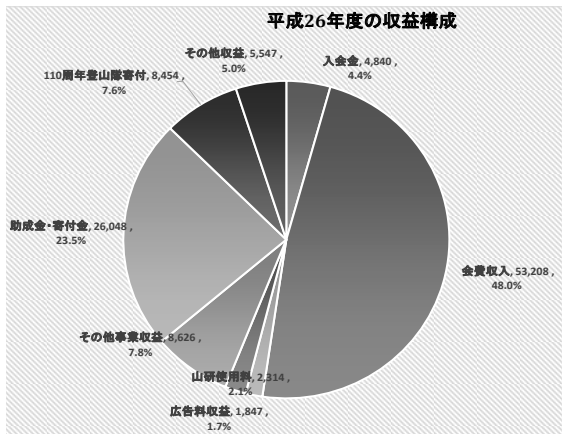
第2号議案 平成26年度決算報告(案)

決算概要

平成26年度は、新入会員の増加により会費収入は増加に転じ、寄付金・助成金の収入も増加し続けていることから、日本山岳会として過去最大級の収益と費用を計上した。寄付金等の増加に伴い会費収入の総収入に対する割合は48%となり、初めて50%を切るようになった。しかし、赤字幅は縮小したものの、前年に続いて経常損益は赤字となり、財政状況は厳しい状況となっている。

平成27年に迎える創立110周年記念事業の一環として海外登山基金を利用して、学生や支部の海外登山隊の派遣を行った。また、寄付金・助成金による家族登山普及事業や、全国の森作り活動の拡大が続いている。さらに、支部活動への助成制度を拡充したことに伴い、支部における周年記念行事や新規事業などの活動が活発化してきた。以上のような新しい活動が収益と事業費用の増加原因となっているが、同時に、日本山岳会復興の原動力ともなりつつある。

平成26年度においては、創立110周年記念事業が開始されたことから、経常的な事業収益、事業経費と区分するために、110周年記念事業に関する収益と事業費については、経常外収益、経常外費用として、正味財産増減計算書(損益計算書)に開示することとした。



収入と寄付金などの増加

当会の経常収益合計額は、対前年度比で微減して、102,429千円となった。しかし、経常外収益に110周年記念事業の登山隊への寄付金等が8,453千円、計上されているので収益の総額は、110,882千円に達し、前年比6.1%の6,415千円が増加する結果となった。

入会者の増加により、入会金は、4,840千円(前年比19.2%増)、受取会費については53,207千円(前年比0.8%増)となり、退会者と会費滞納者は依然多いものの会員からの収入は復調しつつある。

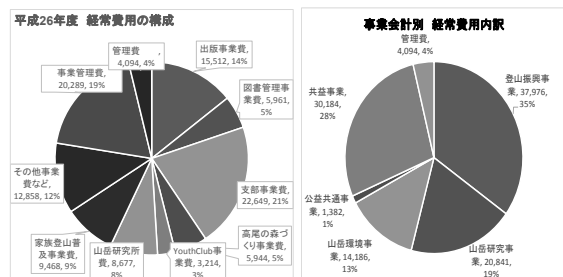
また、寄付金、補助金・助成金などの収入は、経常収益で、26,047千円、経常外収益で、8,453千円となり、その合計金額34,501千円は、前年比で25.4%増加した。また、事業収

東海	狼投の森の生物調査 (赤外線定点カメラ設置)
京都滋賀	比良山系八雲ヶ原の自然保護活動に支部として参加した。 比良ダンダ坊遺跡の整備、自然保護活動を支部会員が中心となって行った。
広島	NPO法人西中国山地自然史研究会との合同事業として、戦後牧場として開拓された原野を、本来の湿原に再生し、鷹などの猛禽類や野生植物の再生を試みている。 広島支部は4/20(土)23名(合計31名)、ひろしま「山の日」の5/31(土)22名(合計30名)が参加して、「霧ヶ谷湿原 自然再生地」(下流部2.5ha・上流部1ha)の保全活動を行った。
北九州	森林保全巡視を実施した。九州森林管理局より委嘱を受けた巡視員26人が、1年間を通じて、夫々の山域でゴミ不法投棄の監視を始めとする巡視活動を行った。7月29日 井原山(11人)、11月16日 孔大寺山～湯川山(7人)。
熊本	第15回・第16回森林保全巡視登山 4月26日(目丸山) 12名 10月4日(高岳) 9名
自然保護委員会	「写真が語る山の自然：山岳写真データベース」 広く山岳会会員や一般から過去の山岳写真を集め、現在の山岳写真とを比べて山の植生や環境がどう変わってきたかを比較できるデータベース。利用者は一般の登山者や研究者。管理運営は自然保護委員会が行った。
他1-1 登山活動指導	北海道 完達したオホーツク分水嶺の彼方に続くカムチャッカを含めたロシア極東地域において、創立50周年記念事業として北海道の地理的特性を活かした北海道支部ならではの海外登山を計画。その前年に北大の協力の下、自然環境生態系観察を兼ねて沿海地方の世界自然遺産登録のシホテアリニ山脈南端の一座であるオープラナヤ山のプレ海外登山を実施した。(日程8月1日～6日・頂上到達 8月3日 14時15分・隊員13名 うち支部会員11名うち北大関係者生態系観察隊長1名 支部会員以外の北大関係者生態系観察隊 2名)
青森	毎年1月に鱈ヶ沢で山岳スキー研修、春と冬は八甲田山に夏と秋は多方面の山域に登山を行っている。また、20周年記念行事としての県境踏査を継続している。毎回数名から10数名の参加者である。
東京多摩	「会員向け登山基礎講座及び安全登山講習会」 定例山行/年8回実施、118名参加。平日山行/10回実施、95名参加。奥多摩山開き & 新入会員オリエンテーション山行実施、27名参加。6月7-8日、三支部(山梨・埼玉)合同懇親山行。山梨支部主管開催。多摩支部から7名参加。
東海	森林力養成講座、沢登り研修会、写真山行、森の勉強会、アイスクライミング研修会等を実施
宮崎	登山研究会を毎月開催。情報交換、登山技術研修会を実施。 支部30周年記念事業として刊行する「神々の山を辿る」30座の踏査を会員56名で実施した。
集会委員会	会員のため登山を実施(国内は7月、8月、9月、12月、1月、2月、3月に実施、海外は6月に実施)。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
他1-2 文化活動 支援	図書委員会	図書交換会の開催 (12月6日)。 会報『山』の図書紹介と『山岳』の書評欄の、本の選定・執筆者選定・依頼・入稿
他1-3 年次晩餐会、 支部懇談会	総務委員会	年次晩餐会の開催 (12月6日) 京王プラザホテル (510名)。秩父宮記念山岳賞受賞者、海外遠征隊による講演会の開催。

な収支と明確に区別するために経常外収益、経常外費用として計上することにした。

経常外収益に計上したものは、学生部女子ムスタン登山隊、ガンガブルナ北稜登山隊に対する寄付金等8,453千円であって、経常外費用には、海外登山基金からの助成金4,880千円の使用を含む各登山隊の総費用12,690千円が計上されている。この結果、経常外損益は4,236千円の赤字となった。



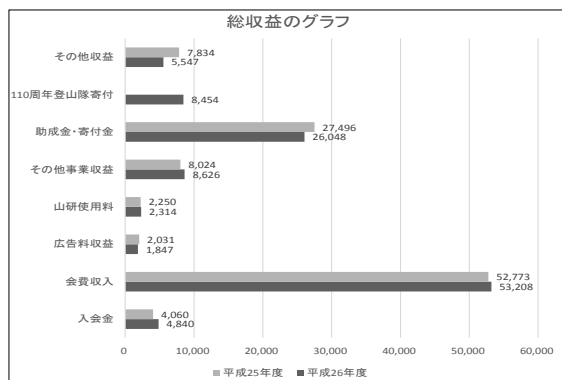
貸借対照表

以上の結果、平成27年3月末現在の日本山岳会の貸借対照表において、現金預金は28,438千円となり、前年度比12.7%、4,138千円減少し、流動資産合計も1.5%減少した。固定資産のうち、特定資産については、海外登山基金を110周年記念事業のため4880千円取り崩し、長期計画準備金（上高地山岳研究所の修繕費用）も、上高地山岳研究所の水道工事の支出にあてたため5,056千円を取り崩した結果、8.9%、9,841千円減少した。その他固定資産である有形固定資産については、資産増加と減価償却費が均衡した結果、微増にとどまった。その結果、固定資産は、269,086千円となり、3.5%、9,778千円減少した。負債は、347千円増加した結果、正味財産額は、302,529千円となり、前年度比で、3.4%、10,763千円の減少となっている。当年度においては、長期計画準備金に関して、運営資金を確保するため、積み増しは行っていない。

貸借対照表（案）
平成27年3月31日現在

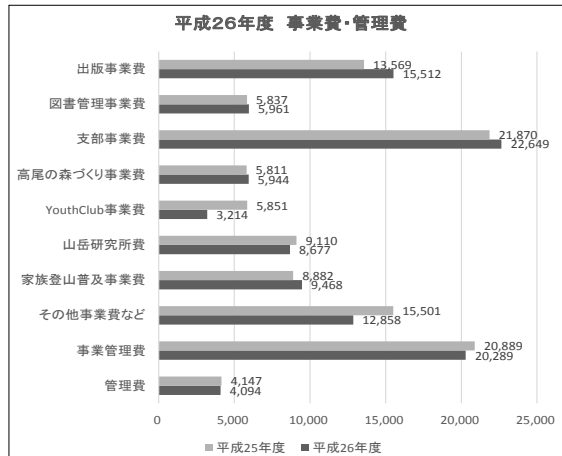
(単位：円)			
科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	28,438,541	32,577,354	△ 4,138,813
未収会費	4,500,000	4,260,000	240,000
未収金	7,185,254	3,561,000	3,624,254
貯蔵品	1,281,500	1,651,950	△ 370,450
流動資産合計	41,405,295	42,050,304	△ 645,009
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託	0	200,000	△ 200,000
定期預金	8,000,000	7,800,000	200,000
基本財産合計	8,000,000	8,000,000	0
(2) 特定資産			
秩父宮記念基金	15,200,000	15,200,000	0
海外登山基金	37,620,000	42,500,000	△ 4,880,000
遭難防止事業基金	10,000,000	10,000,000	0
長期計画準備金	32,711,854	37,767,854	△ 5,056,000
退職給付引当資産	5,087,450	4,700,550	386,900
三宅島緑化特定資産	44,477	337,000	△ 292,523
特定資産合計	100,663,781	110,505,404	△ 9,841,623
(3) その他固定資産			
土地	90,546,119	90,546,119	0
建物	60,783,167	66,462,018	△ 5,678,851
建物附属設備	5,361,714	908,776	4,452,938
什器備品	1,007,895	1,094,835	△ 86,940
機械装置	1,168,885	1,340,638	△ 171,753
水道施設利用権	1,555,334	0	1,555,334

益は、12,786千円となって、前年比で3.9%増加した。雑収益5,513千円の内訳は登山教室などの収入など雑多なものであるが、29.3%の減少となった。



事業費と管理費の減少

事業費については、合計104,569千円となり、前年度比2,748千円の減少となった。この主な要因は、YOUTH CLUB事業予算の削減と、その他事業費に昨年度の3国学生交流登山の主催国としての負担2,551千円が当年度に無くなったことによるものである。しかし、『山』、『山岳』、『JAN』発行のための出版事業費は、消費税増税と物価上昇に伴い14.3%、1,943千円増加しており、事業費総額の減少幅は、2.6%に留まっている。



支部事業費は、本部からの各支部に交付される運営交付金及び支部事業助成金7,677千円、当年度からの新入会員獲得奨励金664千円、特別事業助成金1,100千円を含む支部の活動費用であるが、各支部の活性化により3.6%、779千円増となった。上高地山岳研究所事業費は、減少しているように見えるが、水道工事のために固定資産として支出した金額が当年度は5百万円を超えている。老朽化による実質的な維持費用の増加となっている。

管理費（間接費）については、経費節減に努めた結果、4,094千円となり僅かに減少した。以上の結果として事業費と管理費の合計である経常費用は、108,663千円となり、前年度比2,802千円、2.5%の減少となった。

経常損益と経常外損益

経常収益から経常費用を差し引いた収支（当期経常増減額）は、赤字幅が前年度比10.9%、764千円縮小したものの、6,234千円の赤字となった。依然として、会費収入によって経常的に事業費用をまかなえない状態が続いている。しかし、経常損益の資金繰りは、赤字幅が、資金流失のない減価償却費及び引当金計上額の合計額6,562千円と均衡しているため、資金不足に陥らない状態となっている。

創立110周年記念事業は、海外登山基金と登山隊の募金によって資金手当てが行われるため、その収益と事業費を経常的

調査研究事業費	643,871	602,878	40,993
指導研究事業費	222,556	81,731	140,825
山岳環境保全事業費	180,656	199,198	△ 18,542
支部事業費	22,649,490	21,870,131	779,359
高尾の森づくり事業費	5,944,186	5,811,158	133,028
ユースクラブ事業費	3,214,417	5,851,057	△ 2,636,640
海外事業費	0	149,746	△ 149,746
海外登山助成金	453,780	500,610	△ 46,830
山岳研究所事業費	4,582,858	5,087,900	△ 505,042
山岳研究所減価償却費	3,904,210	3,850,394	53,816
ミニ水力発電事業費	17,971	0	17,971
ミニ水力減価償却費	171,753	171,753	0
家族登山普及事業費	9,467,579	8,882,224	585,355
その他事業費	11,354,037	13,965,658	△ 2,611,621
事業管理費	20,289,037	20,888,676	△ 599,639
事業費計	104,569,703	107,318,628	△ 2,748,925
管理費			
給料手当	2,991,512	2,997,532	△ 6,020
退職給付費用	36,368	45,181	△ 8,813
福利厚生費	181,426	189,186	△ 7,760
旅費交通費	143,521	130,247	13,274
通信運搬費	102,447	82,319	20,128
会議費	22,740	28,551	△ 5,811
消耗品費	29,466	28,122	1,344
印刷製本費	74,416	83,122	△ 8,706
光熱水料費	33,439	33,039	400
電話料	18,218	19,503	△ 1,285
保険料	7,999	7,881	118
租税公課	34,527	34,190	337
負担金	3,000	1,200	1,800
支払手数料	119,702	127,755	△ 8,053
建物減価償却費	68,613	68,613	0
什器備品減価償却費	4,851	2,425	2,426
事務所管理費	124,116	120,312	3,804
その他管理費	42,957	78,276	△ 35,319
雑費	54,966	70,507	△ 15,541
管理費計	4,094,284	4,147,961	△ 53,677
経常費用計	108,663,987	111,466,589	△ 2,802,602
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,234,518	△ 6,999,160	764,642
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,234,518	△ 6,999,160	764,642

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
110 周年受取寄付金	8,453,550	0	8,453,550
経常外収益計	8,453,550	0	8,453,550
(2) 経常外費用			
110 周年記念事業費	12,690,354	0	12,690,354
経常外費用計	12,690,354	0	12,690,354
当期経常外増減額	△ 4,236,804	0	△ 4,236,804
当期一般正味財産増減額	△ 10,471,322	△ 6,999,160	△ 3,472,162
一般正味財産期首残高	279,756,048	286,755,208	△ 6,999,160
一般正味財産期末残高	269,284,726	279,756,048	△ 10,471,322
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取民間助成金	617,000	679,000	△ 62,000
基本財産受取利息	4,774	4,760	14
特定資産受取利息	6,299	6,299	0
一般正味財産への振替額	△ 920,596	△ 353,059	△ 567,537
当期指定正味財産増減額	△ 292,523	337,000	△ 629,523
指定正味財産期首残高	33,537,000	33,200,000	337,000
指定正味財産期末残高	33,244,477	33,537,000	△ 292,523
Ⅲ 正味財産期末残高	302,529,203	313,293,048	△ 10,763,845

その他固定資産合計	160,423,114	160,352,386	70,728
固定資産合計	269,086,895	278,857,790	△ 9,770,895
資産合計	310,492,190	320,908,094	△ 10,415,904
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
前受金	120,000	132,000	△ 12,000
預り金	2,755,537	2,782,496	△ 26,959
流動負債合計	2,875,537	2,914,496	△ 38,959
2 固定負債			
退職給付引当金	5,087,450	4,700,550	386,900
固定負債合計	5,087,450	4,700,550	386,900
負債合計	7,962,987	7,615,046	347,941

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅲ 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	33,244,477	33,537,000	△ 292,523
指定正味財産合計	33,244,477	33,537,000	△ 292,523
(うち基本財産への充当額)	(8,000,000)	(8,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(25,244,477)	(25,537,000)	(△ 292,523)
2 一般正味財産	269,284,726	279,756,048	△ 10,471,322
(うち特定資産への充当額)	(70,331,854)	(80,267,854)	(△ 9,936,000)
正味財産合計	302,529,203	313,293,048	△ 10,763,845
負債及び正味財産合計	310,492,190	320,908,094	△ 10,415,904

正味財産増減計算書(案)

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	4,774	4,760	14
特定資産運用益			
特定資産受取利息	29,234	27,417	1,817
受取入会金			
受取入会金	4,840,000	4,060,000	780,000
受取会費			
通常会費	53,113,500	52,689,790	423,710
終身会費	94,400	83,400	11,000
事業収益			
広告料収益	1,847,308	2,030,550	△ 183,242
刊行物売上	52,500	70,000	△ 17,500
山研使用料収益	2,313,667	2,249,675	63,992
その他事業収益	8,573,084	7,953,800	619,284
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金等	820,586	840,201	△ 19,615
受取民間助成金	13,912,579	13,849,000	63,579
受取補助金等振替額	909,523	342,000	567,523
受取寄付金			
受取寄付金	1,828,000	4,461,000	△ 2,633,000
会員寄付金	8,577,203	8,004,098	573,105
雑収益			
受取利息	6,565	6,444	121
雑収益	5,506,546	7,795,294	△ 2,288,748
経常収益計	102,429,469	104,467,429	△ 2,037,960

科 目	当年度	前年度	増 減
(2) 経常費用			
事業費			
出版事業費	15,512,252	13,568,925	1,943,327
図書管理事業費	5,961,050	5,836,589	124,461

(写し)

監 査 報 告 書

平成 27 年 5 月 13 日

公益社団法人 日本山岳会
会長 森 武 昭 殿

監事 浜 崎 一 成 ㊞

監事 吉 永 英 明 ㊞

私共は、公益社団法人日本山岳会の平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）の監査を行いました。その結果を次のとおり報告します。

1. 会計に関する監査

会計に関する監査のため、期中の取引に関する帳簿、証憑書類を閲覧し、期末資産の残高について実査を行いました。

監査の結果、添付の平成 26 年度の財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録は、いずれも法令及び定款に従い公益社団法人日本山岳会の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2. 業務に関する監査

会計以外の業務の監査のため、理事会に出席し、必要に応じて理事等に面談して質問することなどを行いました。

監査の結果、事業報告書は、法令及び定款に従い公益社団法人日本山岳会の状況を正しく示しているものと認めます。

また、理事の職務の遂行に関し、法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以 上

第3号議案 平成27・28年度役員(理事・監事)選任の件

定款の定めにより理事15名及び監事2名は本通常総会の終結の時をもって任期満了となりますので、

理事15名及び監事2名の選任をお願い致します。理事及び監事候補者は次のとおりであります。

理事候補者

No.	氏名	会員 番号	年 齢	区 分	2015年3月31日 現在のJACでの 活動	過去の JACでの 活動	その他 (本人による記載事項)
1	大久保 春美	7249	66	新任	埼玉支部長	婦人懇談会	JAC隊として、76年日印女子合同登山隊(カメット)及び80年女子ガルワルヒマラヤ登山隊に参加
2	吉川 正幸	7345	66	再任	財務担当理事、110周年委員会など	公益法人運営委員、高尾の森づくりの会	公認会計士及び会社役員、登山会会員、慶大山岳部時代には、インドヒマラヤとコーカサス登山隊に参加
3	小林 政志	7915	65	新任		指導委員会担当理事	中央大学山岳部OB会長、中村屋専務執行役員、76年ナンダデヴィと84年カンチェンジュンガ縦走に参加
4	勝山 康雄	8772	63	再任	集会・資料担当理事	青年懇談会理事、集会委員会理事	法政大学山岳部OB、青年懇談会83バミール登山、89法政大ランタンリルン登山、学生部副委員長
5	神長 幹雄	9722	64	新任	110周年委員会	会報編集長	1980年80周年記念中国・キレン山脈登山隊に同行
6	山田 和人	9909	55	再任	自然保護担当理事	指導委員会、アルパインスキークラブ	京都大学山岳部出身、AACK会員、西チベット那木納尼峰遠征隊、梅里雪山救援捜索隊、森林インストラクター

名古屋夏山フェスタにて

110周年記念シンポジウム

「御嶽山噴火！」開催される

野口いずみ

6月20・21日の両日に、名古屋のウインクあいちにて夏山フェスタ(全国『山の日』協議会・中部経済新聞社主催、日本山岳会東海支部特別協力)が行なわれた。今年のテーマは、「山の恵みとリスクについて今、考えよう」であった。名古屋夏山フェスタは今年で3回目になる。出展者はメーカー、山小屋を中心に、自治体、交通・旅行社など、89機関であった。今年の参加者は6930名で、昨年の5%増、展示会場は多くの参加者で賑わっていた。

セミナー会場では、2日間にわたり、セミナー、トークショー、フォーラムなど13コマが行なわれた。日本山岳会110周年記念フォーラム「御嶽山噴火！」(医療委員会主催)は、2日目の午後約2時間かけて開催された。セミナー会場は300人席が満席で、さらに100名の立ち見が出る盛況だった。人気のフォーラムだったとのこと。

フォーラムは、まず、科学委員会の福岡孝昭委員長の基調講演「活火山の安全登山」が行われた。福岡氏は、日本に110の活火山があり、このうち50火山が常時観測対象になっていること、百名山の3分の1が火山であることから話された。噴火には水蒸気噴火、マグマ噴火、マグマ水蒸気噴火の3タイプがあり、水蒸気噴火はサインが小さく、予知が難しいとのこと。御嶽山、箱根山、草津白根、秋田焼山、焼岳などが水蒸気噴火、浅間山、富士山、桜島がマグマ噴火だそう。なお、噴火頻度の高い火山、桜島、伊豆大島、浅間山、阿蘇山(中央火口丘)などは比較的確知しやすいが、阿蘇カルデラや洞爺カルデラなどの巨大噴火の予知は未知とのこと。安全対策として、登山届の提出、火山ガスの検知と地形の観察(ガスには濡れ手ぬぐいの利用が勧められるとのこと)、地図上でシェルターの位置を



シンポジウム会場の様子

確認すること、泥流や雪崩などの二次災害を警戒すること、事前にウェブなどで活動状況をチェックすることなどを提案された。最後に火山について学習できるサイトを紹介した。

犠牲者に黙とうを捧げた後、福岡氏を座長として、シンポジウム「その時、何が起きたのか？」が行なわれ、自己体験と安全についての取り組みが発表された。まず、上

條剛志氏(医師)はDMATの災害医療医として噴火翌日に山頂に行った経験を報告された。36名の方が亡くなられており、6名の生存者がいられたことを話され、日頃から救急医療を学んでほしいと結んだ。津田祐次氏(カメラマン)は登山中に異臭を感じた経験を紹介し、事前察知の可能性について話した。谷口光洋氏(岐阜県山岳警備隊飛騨方面隊長)はヘルメットの着用、登っている山が活火山であるという心構えが必要であること、ポスターなどによる注意の呼びかけを行なう必要があることを述べた。市川典司氏(五の池小屋)は火山に対するシミュレーショントレーニングを行ない、災害に対する意識を高めておくことが必要であると話した。座長の福岡氏は、今回、山小屋が避難場所としての役割を果たしたことが、被害を少なくする上で有効だった旨、追加した。

参加者は熱心に聞き入り、2時間では少ない感じがするほどだった。このように、多くの方が関心を持たれるテーマについて、今後講演会などを企画したいと考えている。

N — 東北 — — 南北 — S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

日本アルプスの氷河研究 今昔

大町氷河シンポジウムを訪ねて

石岡 慎介

5月、都市圏は真夏日のような異常気象が続いたが、現存氷河を抱く聖山となった立山連峰となれば、そのジオパーク的景観は今ごろどうなっているだろうか。標高2400mの除雪道路にせり上がった「雪の回廊」は、19mほどから

今は半減しても6月中旬ごろまで、さぞ国内外の観光客でにぎわっていることだろう。8月に入れば何事もなかったかのように完全溶融し、歩行者天国もなくなるようだ。

昨年8月の立山カルデラの探索山行を思い出している。勝山康雄理事が熟慮された企画であるが、立山カルデラ砂防博物館の学芸課長でJACの飯田肇会員の講演と

実地検証のご案内は、学術登山の白眉といえるものであった。福井幸太郎学芸員とともに飯田会員は2013年の日本山岳会秩父宮記念山岳賞の受賞者である。氷河地形を見下ろし、山体崩壊現場を横目にカルデラ壁面を這い上がっていくスイッチバック・トロッコも満喫したが、14年『山』10月号(N.833)で井上隆彦会員によって詳報されている。

主題の日本アルプス氷河までいささか遠回りだが、記念山岳賞原案のインタビュー取材で現地へお邪魔したときに、立山に氷河発見の偉業の次はどんなテーマに取り組まれますかと質問したら、こんな研究者魂を語ってくれた。

1・剣岳池ノ谷雪渓、立山内蔵助雪渓、鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓の氷体確認、氷河探索

2・立山の現存3氷河のボーリン

グ内部調査、年代測定 3・温暖化にともなう氷河縮小の研究

4・日本氷河に固有の特性調査など、すでに明確な未来構想を見据えておられた満面の笑みを思い出す。時は流れ、海外の氷河に素人的関心を持ち始めていたころ、14年

8月、鹿島槍ヶ岳北壁直下の氷河調査を進める新聞記事が目に残ったが、その後残雪が多く、崩落リスクのため15年へ順延するという追っかけ報道だった。越中富山の岳徒からすると後立山だが、いよいよ信濃が誇るランドマーク雄峰に潜む氷河の実証探索である。カクネの語源は不明だが、落武者の隠れ里とか伝説があるようで、秀吉と対峙し厳冬の北アルプスのくさくさ越えを決行し、家康と関東旗揚げを志した佐々成政公を思い出していた。辞世の句はその昔憶えた。

この頃の「巨妄想を入れ置きし鉄鉢袋 今破るなり」

早速大町山岳博物館に連絡し、5月16日のシンポジウムの期待に胸が膨らんだ。当日は信州大学山岳科学総合研究所の教授陣と立山カルデラ砂防博物館の実証研究者

が集結していた。日本アルプスの豪雪強風気象から見た氷河調査の意義や第四紀の地層地質の大変動などハイレベルの講話とともに、立山研究者による北アルプスの雪渓・氷河研究史、立山・剣の現存氷河の実証手法、さらに氷期の遺存種ライチョウの将来像など盛りだくさんであった。調査隊10人の団長となられた大町山岳博物館の小坂研究員の司会で進み、講師陣はそれぞれの専門分野を活かして雪渓現場で力量発揮が期待され、本年10月くらいまでに国内4ヶ所目の氷河として実証したい意気込み

に溢れていた。

というのも「カクネ里雪溪は何十年も前から氷河ではないかといわれてきた。先人研究者の思いを結実させたい」と誌上で語る探索者である。学問の系譜として先輩に触れた言葉には重みがあった。

確かにJAC第十二代会長・今西錦司博士が1969年に日本山岳研究誌に寄稿された「40年の回顧」によれば、「私はこのおびただしい残雪を前にしながら、考えてもみた」として結ばれるが、「カクネ里の雪溪も、条件さえ整えば、それ自身が氷河化するに違いないが、その場合はもっとスケールの大きい、はじめから低いところまでの足をのばした、末ひろがりの氷河となる。それが、いわゆる定位置氷河というものでなからうか」と自問しておられる。

さらに驚くべきは神田で発見したJAC『山岳』古書にあった。発刊は33(昭和8)年に遡るが、博士はカクネ里におけるU字谷は、1600m付近に至るまではなだ顕著であることを踏査実証し、カールと無関係に氣候的雪線以下からも氷河が生じ、その場合の氷触地形としては寧ろU字谷を遺す可

能性があることを例証しておられる。この論考では10回ほどカクネ里について言及されているが、この万年雪を氷河の委縮した残骸とまで推論されているのは、これこそ82年前の山の科学節理なのだと思われた。

シンポジウムでは、11年、小島鳥水初代会長のカール地形形成説や29年、今西教授ほかの剋沢の万年雪に氷体存在を確認した足跡、さらにもう一人特筆すべきは日本アルプスの氷河地形の研究者・五百澤智也氏への言及であった。それは59年、地形学者として鹿島槍のカクネ里雪溪が氷河的特徴を持つものとして氷河形成の可能性を空中からと実地踏査で指摘された五百澤研究への回顧であるが、雪溪の氷河学的研究の歴史に画期的な1ページを印したのとして先人の業績に触れた講師の想いは感慨深かった。

かつては山岳地形の科学図を興味本位で楽しむだけの素人岳徒として今回深掘りしてみると、33年、山形が生んだ五百澤氏は病弱な幼少期から身体鍛錬で山を愛され、学術的には空中写真測量の独自技法による山岳地形図の作成が専門

領域である。その結果、山岳鳥瞰図作家として大成され、83年3月8日、秩父宮妃殿下ご臨席のもとに、日本学術振興会顕彰による第19回秩父宮記念学術賞を授与されていた。

顕彰理由も感銘深く拝読した。50歳、愛媛大学講師のころ『日本アルプスおよびヒマラヤ山脈における氷河地形および地誌の研究』がその対象となったのは32年前の83年(昭和57年度授賞)に遡る。集大成として日本アルプスの残雪の戸籍簿のような「越年雪台帳」なるものも完成され、後のヒマラヤ氷河研究の素地を拓くパイオニアでもあることも帰京後知った。

『山』2014年10月号833号において小嶋尚会員が触れた五百澤智也氏による飯豊山地の氷河地形分布の実地解析を次世代に託された追憶や、15年3月号838号で大森弘一郎会員が「航空写真と地図く五百沢さんを想う」で記述された頭脳で作る3D画像のごとき技法を再読すると実に言い得て妙である。

こうしてJAC会員として今西錦司先生、五百澤智也先生という稀に見る自然科学者が歩んだ足跡

の特異さを再認識するとともに、半世紀前に日本アルプスの豪雪急峻地形における氷河存在に扉を敲いた先人の挑戦が、遂に現代の研究者によって夢かなう時が来たのかもしれないと実感したのである。

偶然な時に

小泉弘

6月9日、朝日新聞夕刊の第3面文化欄。

「愛する日本よ…(略)」と題して、イタリア人女性作家が幼少時の名古屋での収容所体験を綴った寄稿が大きく紹介されていた。

苛酷な収容所での生活を陰から支えてくれたのは、ジャガイモやひとつの卵、コップ一杯の牛乳を軍人に隠れてくれた地元農家の人たちの親切だったと、日本への愛情と現状への危惧を綴った長文は大変心に残る記事だった。

彼女の名前はダーチャ・マライーニさん。この名を目にしてピンと閃いた山岳会諸氏もいらしたことを思う。

父親はフォスコ・マライーニ。日本を愛し、北大に学び京大で教

えもした人類学者だが、私たちはカラコルムのガツシャブルムIV峰を陥したイタリア登山隊の遠征記の著者として、その名を強く記憶している。

若き日のボナッティが活躍した登山隊。いやそれより何より、遠征中に大好きな日本人に会えると思った喜び…同時期チヨゴリザに初登頂した桑原武夫率いる京大隊との心暖まる交流の場面が忘れられない。氏はここに記すまでもなく、日本山岳会会員であった。

すっかり忘れていた『G4』の箱入りの部厚い一冊を思い出した。

記事の終りには写真家でもあった氏の写真展開催を報じていた。

良い記事に出会ったなど幸せな思いに包まれて夕刊をめくり、その裏面第4面の上半部を占めた「大山崎山莊美術館 加賀正太郎が礎」と題されたカラー頁の大きな記事に再び心が騒いだ。加賀正太郎の顔写真も載っている。

実業家・加賀の生涯と、自ら設計した京都・大山崎の天王山山腹に建つ豪壮な山莊の来歴が書かれている。

夏目漱石やドラマ「マッサン」の主人公・竹鶴政孝氏、そしてアサ

ヒビール初代社長などが登場し、取り壊される運命にあった山莊を救い、現在の美術館へと繋いだ興味深い記事であったが、加賀の略歴中にさりと記された、1910年にスイスのユングフラウに日本人として初登頂の一行など、ほとんどの読者は気にも留めなかったであろう。

今から10年ほど前、山岳会100周年記念事業の一環として『写真で見る日本山岳会の100年』を亡き羽田栄治さんとご一緒して作った際、それまでも折にふれ目にはしていた、ロングコートを着てユングフラウの頂上に立つ加賀正太郎の写真をレイアウトしたことを思い出す。

前後にレイアウトした写真の中に写る高野鷹蔵さん、近藤茂吉さん、榎さん、秩父宮殿下、松方さんなど大先輩の方々がゲートルやニッカーボッカーの登山姿の中にあって、この1枚はひと際印象的だった。

夕刊紙1枚の表裏、3面と4面に偶然に背中合わせとなった何の関連性もない2つの記事。それぞれの担当記者も編集校閲したスタッフもまさかそんな思いで2つの

記事を目にする読者がいようとは考えもしなかったであろう。
この日の夕刊は思いもしなかった感慨深いひとときを運んでくれた。

山研委員会

徳本峠越えとウエストン祭

島々から徳本峠を越えて上高地へ抜ける古の街道は、イギリスの宣教師ウォルター・ウエストン卿を初めとして小島鳥水、志賀重昂などの登山家に加え高村光太郎・智恵子夫妻、芥川龍之介なども歩いたことで知られる。

この徳本峠の由来は多くの説があるが、この名前が地図に記載されるようになったのは大正になってからのようである。この道は古くは鎌倉時代にまで遡り、江戸時代初期、寛文年代には木材資源の伐採や炭焼きの仕事場として生活を支えたルートだったとのこと。

活動報告

日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です。

た。
こんなことも在るのだなあ。
「偶然」はときになんとも素敵なことをしてくれる…。

また、亜高山帯特有の薬草を求める人々が、300年以上前に小屋掛けしたのが徳本峠小屋の前身だといわれている。

今回、この徳本峠越えを先人と歴史に思いを馳せながら新緑の中を楽しく歩くことができたのは、山研委員の方々、共に歩いた仲間と、今日の徳本峠越えに先立ち事前に登山道の整備をしてくださった日本山岳会信濃支部の皆様のおかげと感謝している。山研隊の徳本峠越えに参加したのは東海支部から12名、栃木県会員1名、千葉県会員1名、埼玉県会員2名、首都圏3名に加え、本部より副会長古野さん、大槻さん、五十幡夫妻の方々であった。

INFORMATION

創立110周年記念事業 日本三百名山登頂シリーズ④

「日本三百名山登頂シリーズ」という創立110周年記念事業の山行企画第4回のご案内です。今回は南アルプス北端の日本三百名山で、一般的な登山道がなく、難峰として知られる鋸岳(2685m)を目指します。JAC会員以外の方も参加できますので、山仲間やご家族などお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

本企画の特徴は、

・日本山岳ガイド協会のガイド資格を有するツアーリーダーが1名(最少催行人数7名の場合)同行します。

・インタープリター(解説員)として当該山域に精通しているJAC支部会員(第4回の場合は山梨支部)が、また、サポーターとして本部集會委員会スタッフがそれぞれ1名同行します。

【第4回日程・行程など】

期間 9月5日(土)〜6日(日)
集合解散 JR伊那市駅13時15分集合、同駅17時30分ごろ解散予定

行程 1日目/伊那市駅(送迎車)

戸台登山口(2時間30分)角兵衛

沢出合(テント泊) 2日目/角兵

衛沢出合(5時間 第一高点(5時

間30分)戸台登山口(送迎車)伊那

市駅解散

食事 各自持参(キャンプ予定地で取水可能)

装備 ヘルメット各自持参、テントなどの担荷あり

参加費 会員/3万2000円

会員外/3万4000円

定員 11名(最少催行人数7名)

申込み・問合せ 〒160-0000

08 東京都新宿区三栄町25番

地三栄ハウス202 (株)アトラ

ストレック

TEL 03-3334-1003

FAX 03-3334-1920

日本三百名山登頂シリーズ係

で。担当 今村

✉ info@alastrek.co.jp

*お申込みの方に詳細なご案内を

お送りします。

(創立百十周年記念事業実行委員

会/集會委員会)

山岳会関係者と一般の方を含めこの日の徳本峠越えには総勢約300名の方々が参加された。

前夜からの雨も止み、島々での式典、体操を済ませて出発、まずは6・3km先の二股を目指した。川の瀬音を聞きながらの林道歩きが続く、新緑に癒され約2時間で二股に到着。しかし、トイレに長蛇の列ができており大渋滞、かなりの時間をトイレ休憩に割くこととなった。ここからはいいよいよ山道に入る。傾斜は緩く南沢の高巻き道をどんどん上がっていく。下女沢、一ノ沢、瀬戸沢、出シノ沢、ワサビ沢のなど集まって来る沢の徒渉がたくさんあり、滑りやすい木橋や木道を慎重に通りながら岩魚留小屋を目指す。滝や沢の景色も変化に富み飽きることがない。二股から歩くこと間もなく、奇妙な樹形「あがりこサワラ」に遭遇。これは雪上で伐採した萌芽幹を薪として繰り返し利用した樹形のことで、まるで、人の手が届かないような高い所で萌芽した特徴的な樹形をこのように呼ぶのである。

岩魚留小屋に到着後早めの昼食、前日泊まった新島々の民宿で用意してくれたお弁当を美味しくいた

だ。岩魚留小屋は、島々谷南沢と岩魚留沢の合流部にあり、少し上流には岩魚留ノ滝がある。「ここから先は岩魚が上れない」と言うのが名前の由来とか。岩魚留小屋の脇には「カツラ」の原木があった。ここで山研隊は記念撮影。撮影を終えて本日の最大の山場、徳本峠を目指した。間もなくニリンソウの群落到遭遇、思わずカメラを向ける。今年は雪解けが早いのでニリンソウは終わっているのではと心配していたが、満開であった。

美しい花に癒され急勾配の登りにもめげず歩を進めることができた。九十九折りの急登を登り切ると徳本峠小屋に到着。小屋で振る舞われた豚汁の美味しかったことこの上なし。疲れも一挙に吹き飛んだ。素晴らしいおもてなしに感謝。ウェストンが絶賛した峠から見る穂高連峰の景色は残念ながら一部を除き雲の中。雲が切れ穂高連峰の全景を堪能すべく、しばし待つも時間切れ。記念撮影後、後ろ髪を引かれる思いで上高地へ向け下山開始となった。

徳本峠小屋までの所要時間は、体調不良の方がいたこともありコースタイムをオーバーしていたが、

快調なペースで下山。まずまずの所要時間での山研到着となった。

山研到着後受付を済ませ懇親会となったが、用意していただいた料理・お酒はまるで高級旅館。準備していただいた山研運営委員長柴山信夫さんをはじめとする山研委員の皆様、並びに管理人元川里美さんに感謝感謝であった。素晴らしいおもてなしに感激。また近いうちに山研を訪れたくなつた。翌朝は早朝から有志で夜明けの上高地撮影会を催行、それぞれ思い思いに被写体を見つけて一心不乱に撮影（でき栄えは定かでないが……）、早朝の上高地を楽しんだ。朝食後は、記念撮影後ウェストン祭に出席。献花、献歌、黙祷、詩の朗読があり、女性で初めてピオレドール賞に輝いた、日本が誇る世界的女性クライマー・谷口けい氏の記念講演に耳を傾けた。式典のあと、信濃支部の午餐会に出席。日本山岳会森武昭会長と来賓の皆さんのお話を聞きながら楽しく過ごした。どうして午餐会にカレーライスなのかはよく分からないが、美味しくいただいた。

（東海支部・毛利邦男）

Climbing&Medicine・69

打撲・捻挫にはアイシング

浜口欣一

登山をはじめスポーツには、思わぬケガがつきものである。ケガをした時に応急処置をするかしないかで、その後の治癒と結果が大きく異なってくる。

今回は日常遭遇する打撲・捻挫の応急処置として重要な、アイシングについて述べてみたい。

ケガをした場合、出血・腫脹・疼痛・血管や神経の損傷を防ぐため、ケガした部分を安静(Rest)にし、腫脹を抑えるために氷や冷水によって冷却し(Icing)、内出血や腫脹を防ぐために弾性包帯やテーピングで圧迫(Compression)、腫脹を防いだり軽くするためにケガした手足を挙上する(Elevation)。これがRICEと呼ばれる応急処置である。この中のひとつであるアイシング(Icing)の事例を紹介する。

筆者は何年か振りで新調した山スキーを携えて、上越の東谷山に出かけた。傾斜がきつくなるに従って左足のスキーが頻回に外れてしまう(ビンディングはTLTでトップが登高モードでなく滑降モードであったことを後で知った)。板を履く度に斜面での微妙なバランスを保持するのが大変になり、かなり大腿部に負荷がかかった。頂上間近という場所で、左足のスキーが外れ、バランスを崩して転倒、10mほど滑落してしまった。ケガはしていないようだが、右大腿部が多少痛かった。登頂を諦め下山することにした。同行者が、スキーを担いで下りより、履いて滑った方が楽であるというのでトライしてみた。立木の少ない斜面を滑降してみたが、右足の踏ん張りが効かないのでスキーを脱いで担いで下ることにした。しかし右足が思うように動かせず、4、5歩歩いては一呼吸しな



ければならない状態。大分時間がかかってしまったが、何とか駐車場まで戻った。宿に戻って右大腿部を見ると、パンパンに腫れて、打ち身による内出血、青アザが見られた。転倒時に立木に衝突したのだ。すぐ冷凍庫に保管してあったアイスノンを密着させて冷やし、タオルで縛って圧迫した。アイスノンの冷たさは全く感じなかった。受傷後4日目に整形外科を受診したところ、X線撮影で大腿骨に骨折がないことがわかった。特別な治療は不要で、時間の経過を待つしかないとのこと。10日目頃からケガした部位の緊張感は軽くなってきたが、膝を中心に浮腫が出現、やがて下肢に浮腫と出血斑が移動した。3ヵ月経った段階で下肢の浮腫は完全に消失していないが、大腿部打撲に関しては後遺症はない。初期のアイシングのお陰と判断している。野口いづみ先生は、日本山岳文化学会、日本登山医学会で、黒部上廊下で仲間が足首の捻挫をしたが、テーピングと繰り返される徒渉での沢の水によるアイシングで、予定通りの行動ができた事例を報告している。

今回、自験例および報告例は、打撲・捻挫のアイシングの重要性を示していると思われる。アイシングをするかしないかで、ケガによる後遺症の程度が変わる。RICE、中でもアイシングをを記憶に留めておいてほしいと思う。

写真は受傷10日目の足首で、浮腫、漏出性出血が顕著である。

なお、過去のコラムはつぎの手順でご覧になれます。ご活用ください。

日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

支部

だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

北海道支部

北海道支部創立50周年

岩崎元郎氏を迎え、記念講演会を開催

北海道支部は6月18日(木)に北海道支部創立50周年記念講演会「岩崎元郎さんの健康登山 in 札幌」を主催した。タイトルにあるとおり、講師は数々の著作やテレビ番組でもおなじみ無名山塾主宰の日本山岳会の会員でもある岩崎元郎さん。製薬会社の特別協賛と旅行会社、登山用品店などの協賛・協力を得て、札幌中心部の北海道新聞「道新ホール」で開かれた講演にはおよそ400人の一般の登山愛好者が集まった。最近の登山界の状況を反映して参加者は中高年が目立った。

講演に先立ち、挨拶に立った西山泰正北海道支部長は、今年が支部創立50周年にあたることに触れ、

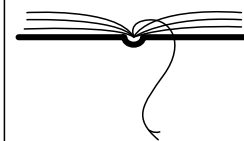
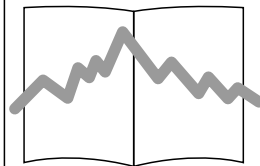
来年から8月11日が祝日となる

「山の日」に因んで、「魔道登山道の復興や山のトイレ問題解決キャンペーン」など道内の登山者に喜んでもらえる山の環境保全・安全登山といった公益的な事業にも力を入れていくと述べた。第1部は「山に登ると元氣になります」という演題で、岩崎さんが豊富な経験をもとに健康で末永く登山を楽しむためのコツなどをアドバイスした。なかでも「健康登山は歩幅を狭く着地しやすくするフラットフットイング」という登山の原点について説かれた岩崎さんの話が印象的だった。

第2部は「今そこにある山の危険」と題して岩崎さんと地元登山用品店「秀岳荘」の小野浩二氏(北海道支部会員)、「ICI石井スポーツ札幌店」の及川洋文氏との3人の対談形式で話が進められた。小野・及川両氏は店を訪れるさま

ざまな登山者と接し、自らも各地の山に登って道内の登山事情に精通している。岩崎さんはそうした2人からそれぞれの経験に基づく北海道の山ならではの危険性や難しさについての話を引き出して、安全に山に登るためのポイントを参加者に示してもらった。特に最

図書紹介



ウェイド・デイヴィス著
秋元由紀訳

沈黙の山嶺―第二次世界大戦とマロリーのエヴェレスト
上・下巻



2015年6月
白水社
菊版 上巻392頁 下巻410頁
上巻3200円+税
下巻3400円+税

本書は、第1次世界大戦後の3回にわたる英国エヴェレスト遠征を描いた上下巻2段組みのノンフ

近多い単独行の危険性、最新の登山用具が使い方や手入れの方法を間違って性能を発揮できない例なども紹介された。

講演終了後は豪華景品の当たる抽選会も行なわれ、有意義かつ楽しい講演会となった。

(藤木俊三)

イクシヨンの大作である。

マロリーとアーヴィンがエヴェレストの頂稜に消えたその日、イングランドの美しい山では大戦で死んだ若い登山家たちを弔う集いがあつたと、本書は静かに始まる。1914年、ヨーロッパ中がきらめくような美しい夏に始まった大戦は、18年11月に終わってみれば、ヨーロッパは荒廃し、イギリスだけで100万人が死に、帝国の終焉の始まりを予感させた。そんな世界から地球の最高峰を目指すのは、あの銃の連続音と鉄条網と塹

『山岳』第百十年(2015年)発刊のご案内

お待たせしておりますが、『山岳』第百十年号は8月中旬の刊行を目指して、現在進行中です。『改訂 新日本山岳誌』の重版作業と同時進行のため予定より遅れまして、真に申し訳ありません。もう少しお待ちください。

〈第百十年号目次〉

〔記録〕

- * 厳冬期黒部横断
- * 東へ350 km・知床岬へ
- * 山葵四重奏
- * ザンスカール・P6070 (L15) 初登頂
- * ムスターグ・アタ登頂
- * ムスタン山群・マンセイル峰初登頂
- * アマダブラムへの挑戦 久々に国内記録が2本登場します。カラー口絵を充実させましたので、報告と合わせてお楽しみください。

「山葵四重奏」は谷口けい会員のルース氷河における4本の登攀報告です。後半の4本は、JACの将来に繋がる、フレッシュな学生登山隊の記録です。

〔調査・研究〕

- * 原発事故による宮城県 of the 山地

および丘陵地の放射線量
* 南チベット2014年秋4500 km——遠きる境界「原発事故」——は本誌では異色の報告ですが、宮城支部が取り組んできた地道な調査の結実です。

〔読物〕

- * アルバータ峰登頂90周年と伝説のピッケル
- * 東ジャワの山 アルゴプーロ山
- * 立山信仰を具現化した江戸時代の布橋灌頂会
- * 山脈・人脈——歩いてきたまち アルバータ峰のピッケルについてはいろいろ書かれておりますが、初登頂90周年にちなんで芳賀孝郎会員がまとめてくださいました。

「立山信仰」——は芦峰寺集落に残る赤い布橋にまつわるドラマを五十嶋一晃会員に懇切丁寧に解説していただきました。

- 以下は例年どおりの構成です。
- * 図書紹介
- * 追悼
- * 会務報告
- * 支部の活動報告
- * 委員会の活動報告
- * 山岳図書目録(2015年)

(『山岳』編集委員会)

壕と死の不条理と腐臭を耐え抜いた者たちである。

1840年代後半、英印測量局により発見された最高点は、謎と危険に満ちたチベットにあり、65年にエヴェレスト峰と命名されると、早くも若き政務官ヤングハズバンドが登山の推進力となる。一方エヴェレストのあるチベットは、グレートゲームに翻弄されて複雑な様相を呈していたが、イギリスはチベットに武器を供与して登山の許可を得る。そこまで英国をエヴェレストに駆り立てたのは、7つの海に君臨しながら北極にも南極にも到達できなかったからである。初登頂という快挙を成し遂げれば帝国は大きな誇りと自信を回復できる。そこに登場するのが不可能性の象徴としてのエヴェレストを一途に志向するマロリーである。

1921年初めの登山隊は、地図の作成、新種植物の発見、地質調査に大きな貢献をし、22年隊は映像と、技術と倫理上の問題はあったが酸素を使用して画期的なものだった。24年、負けたままにはいかないと登山隊は戻ってくる。本格的登攀、緊張と不安、強い期

待。6月8日、オデルが一瞬の晴れ間に見たとき、マロリーとアーヴィンは頂上に向けて登り続けていたが、二人は戻ってこない。

7度の失敗の後、53年5月29日、遂にエヴェレストはその頂を人類の足下に明け渡した。初登頂、そのニュースはエリザベス二世の戴冠式に華を添え、99年にはマロリーの遺体が発見される。

本書の収獲は、登山隊員のほとんどが第1次世界大戦に参加した者だった点に着目したところだろう。隊長は軍人で隊員のほとんどが大戦経験者だからこそ、軍隊式の組織と軍事行動的登山が可能であった。各隊員に要求されたのは創造力、忍耐力、目標への集中力だったが、マロリーにはさらに天賦の才能があった。そのマロリーが死に、遠征はいずれもが失敗した。それにもかかわらず、なぜ今マロリーのエヴェレストなのか？

エヴェレスト登山は商業化されエキゾチックな旅先となった現代では、観光的登山者の登頂談など誰も興味を持たない。それよりも、登頂ルートはおろか山の位置も形も正確には分からず、酸素の少ない高所で人間の体がどうなるかも、気

象情報も乏しく、装備は不十分だった。そんな条件下で隊員たちが文字どおり命懸けで挑んだ、そんな時代に私たちは惹き付けられる。著者は過去のマロリー像をなぞるのではなく、膨大な文献資料を探索し、遠征隊の道を実際にたどり、あたかもタペストリーを織るかのよう、10年をかけて壮大な叙事詩を書いたのである。ザ・グレート・ウォーの時代の空気が全編に通底し、マロリーを巡る人々もまた細かなエピソードに彩られてポリフォニーを奏でる。2年を要した翻訳は、舞台に相応しい緊張感を伝えて好ましい。

マロリーが風雪の彼方に消えてから91年、本書によってマロリーは再び甦った。本会会員にいち早く本書を紹介できることが何よりの喜びだ。マロリーをこの世で最後に見たオデルさんが最晩年、本会を訪れたことを思い出してペー

ジを閉じた。
著者は1953年生まれのカナダ人人類学者、本書でサミュエル・ジョンソン賞。原題は『INTO THE SILENCE』、白水社100周年の記念的図書でもある。

(絹川祥夫)

図書受入報告(2015年6月)

編著者	書名	ページ/サイズ	発行元	刊行年	寄贈/購入別
北海道大学山の会(編)	寒冷の系譜(1926-2016) : 北大山岳部90周年記念海外遠征史	402p/26cm	北海道大学山の会	2015	発行者寄贈
北大山の会(編)	北大山岳部・山の会 映像で見る海外遠征史 (DVD解説書)	20p/19cm	北大山の会	2014	発行者寄贈
渡辺隆(編著)	山の履歴簿 山と人との関わり : 第2巻 北海道中央部	412p/21cm	北海道出版企画センター	2015	著者寄贈
日本山岳会関西支部(編)	日本山岳会関西支部80年史	217p/26cm	日本山岳会関西支部	2015	発行者寄贈
水谷透(編)	近畿分水嶺踏査	93p/26cm	日本山岳会関西支部	2015	発行者寄贈
金邦夫	すぐそこにある遭難事故 : 奥多摩山岳救助隊員からの警鐘	263p/19cm	東京新聞	2015	著者寄贈
村越真・長岡健一	山のリスクと向き合うために : 登山におけるリスクマネジメントの理論と実践	190p/26cm	東京新聞	2015	出版社寄贈
静岡新聞社編集局出版部(編)	伊豆の山歩き海歩き : IZU 伊豆半島ジオパークトレッキングガイド	160p/26cm	静岡新聞社	2015	出版社寄贈
廣澤和嘉・児平隆一	日帰りしずおか低山ウォーク Best 20	128p/26cm	静岡新聞社	2015	出版社寄贈
「写真の町」東川町(編)	大雪山から育まれる文献誌誌集	59p/30cm	「写真の町」東川町	2015	高澤光雄氏寄贈
田中康弘	山怪 : 山人が語る不思議な話	252p/19cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
梅棹忠夫	山をたのしむ(ヤマケイ文庫)	447p/15cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
安川茂雄	穂高に死す(ヤマケイ文庫)	430p/15cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
宮下正美	山をゆく歌	220p/26cm	高森町	2015	宮下徳高氏寄贈
宮下正美	消えた馬	220p/26cm	高森町	2015	宮下徳高氏寄贈
宮下正美	ふうちんと山犬	220p/26cm	高森町	2015	宮下徳高氏寄贈
みらい企画 律(制作)	宮下正美著作集資料編 : 略歴譜・略系図・作品リスト	20p/26cm	高森町	2015	宮下徳高氏寄贈
広島県山岳連盟(編)	広島山岳平和祭報告書 : 2014年アジア山岳連盟(UAAA)総会	42p/32cm	広島県山岳連盟	2015	発行者寄贈
松永敏	あの日あるとき : 少年時代の野遊びと山行中のヒヤリ体験感動スケッチ	144p/15cm	月兎舎	2015	著者寄贈
中川委紀子	根来寺を解く : 密教文化伝承の実像/朝日選書 No.915	315p/19cm	朝日新聞出版	2014	著者寄贈
神仏霊場会(編)	神仏霊場ものがたり : 日本宗教の聖地とそのダイナミズム	208p/19cm	戎光祥出版	2012	著者寄贈
岩波書店編集部(編)	富士山(岩波写真文庫 No.15)	64p/19cm	岩波書店	1950	古屋紘氏寄贈
串田孫一	笛を吹く画家 : 随想集	190p/22cm	文教書房	1986	古屋紘氏寄贈
小泉武栄	登山と日本人(角川ソフィア文庫 No.1-127-1)	272p/15cm	KADOKAWA	2015	出版社寄贈
雑学総研	異邦人が覗いたニッポン (中経の文庫 No.629)	253p/15cm	KADOKAWA	2015	出版社寄贈
Kielkowski, Jan	Dhaulagiri Himal : Monograph - Guide - Chronicle	274p/21cm	Explo	2015	著者寄贈



会務報告

平成27年度第3回(6月度)理事会 議事録

日時 平成27年6月8日(水) 19時
00分～20時40分

場所 集会室

【出席者】森会長、節田・黒川・古
野各副会長、高原・吉川・
佐藤各常務理事、勝山・山
田・野口・大槻・落合・川
瀬・山賀・直江各理事、吉
永監事(山賀理事は所要の
ため審議事項1～2は欠席)
【欠席者】浜崎監事

【審議事項】

1・支部事業補助申請について
支部事業委員会より推薦のあつ
た5支部からの申請書(別添資料
による)の審議を行ない、今年度の
第1回事業補助額を、東京多摩支
部、広島支部、熊本支部へ各10万
円、宮城支部、群馬支部へ各5万
円とした。(賛成14名、反対なしで

承認)

2・支部長の交代について

以下のとおり支部長交代の答申
があり審議した。(賛成14名、反対
なしで承認)

栃木支部…現支部長 山野井武夫

(4633)↓新支部長 渡邊雄二

(7914)

千葉支部…現支部長 諏訪吉春

(14255)↓新支部長 三木雄

三(14445)

越後支部…現支部長 橋本正巳

(7758)↓新支部長 遠藤家之

進正和(いえのしんまさかず)

(8275)

3・寄付金受入及び募金開始の承認について

100万円以上の寄付金受入2
件、及び募金開始1件の申請があ
り、別添資料により審議した。(賛
成15名、反対なしで承認)

4・人会希望者承認について

18名の入会について、別添資料

により審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

【協議事項】

1・ネパール大地震救援募金への対応体制について(佐藤)

標記募金を行なっており、今後寄付金の配分先等を決める体制が必要となるため、別添資料により協議した。

2・熊本支部からの九州脊梁山脈トレイルラン大会に伴う名義後援申請について(佐藤)

別添資料により協議した。論点は、参加人数、一般登山者数、環境対策(原状復帰を含む)、営利目的でない等。支部事業委員会での審議を経て、担当執行理事が決済することを確認した。

3・海外登山助成金交付者に対する寄付税額控除適用について(古野)

標記につき、実施可能とするための整える条件等について協議した。

【報告事項】

1・総会の出欠状況について(高原)

2・黒部市歴史民俗資料館からの

冠松次郎関係資料の借用許可について(節田)

3・(株)テレビマンユニオンからの秩父宮殿下と麻生武治氏の関連所蔵資料撮影許可について(節田)

4・山と溪谷社からの『明解日本登山史』への所蔵写真掲載許可について(節田)

5・山岳映画サロンからのネパール大地震救援募金チャリティ山岳映画会の名義後援許可について(佐藤)

6・110周年記念事業委員会について(黒川)

7・110周年記念事業極限探求登山申請としてアピ南西壁初登攀計画について(黒川・古野)

8・110周年出版事業インドネシア・プロジェクトの登山隊派遣について(吉川)

9・会員増強・財政基盤検討PTについて(黒川)

10・寄付金・助成金受入の事前申請、受入報告について(吉川)

11・ネパール大地震救援募金は、6月8日到着分までで709万5000円(うち、本会会員によるものは381万4000円)であった。(佐藤)

12・ランタンプランからのネパール地震によるランタン村被害復興支援募金の依頼があり、今後検討していく旨報告があった。(佐藤)

13・ネパール政府観光局日本代表部からの、ネパール復興支援バツジ購入の案内について(佐藤)

14・京王電鉄(株)からの高尾に新設される「599ミュージアム」への協力について(吉川)

15・放送大学講座改訂への協力要請について、篠崎会員より要請があり協力することについて(森)

16・全国「山の日」協議会の平成27年度総会開催(平成27年5月22日)について(山賀・森)

17・日中韓三国学生交流登山(於：中国・武漢)の日程(8月12日～19日)等について(古野)

18・電子国士賞2015について(佐藤)

19・会員データ管理システムの進捗状況。7月29日システム移行し、9月より新システムで対応することについて(山田・高原)

20・雪山(4月24日～5月8日)天気予報の精度について(古野)

21・遭難対策委員会主催の山岳遭難防止セミナーの開催(7月6日)について(川瀬・黒川)

22・故吉田周平君のお別れ会が、

5月24日学習院大学において執り行なわれた。(古野)

23・カシオ計算機(株)より110周年記念ウオッチの提案について(佐藤)

24・会報『山』6月号について(節田)

【連絡事項】

1・日山協の新役員について(会長・八木原聡明氏ほか)

2・長野県より中部4県の「山のグレーディング」に関する公表資料の送付

3・第5回石鎚山ヒルクライム開催に伴う交通規制について(事前周知協力要請)

4・今夏の富士山における須走・吉田ルート下山道分岐位置について

5・田部井淳子氏「エベレストから40年、感謝の気持ちを込めて」7月3日(金) 17時50分

【今後の予定】

1・平成27年度通常総会 6月20日(土)14時 主婦会館ブラザエフ

2・平成27年度臨時理事会 6月20日(土)総会終了後 主婦会館ブラザエフ

3・新入会員オリエンテーション 7月4日(土) 13時30分 104会義室(終了後集會室で懇親会)

4・山岳遭難防止セミナー 7月6日(月) 19時 20時30分 東京体育館第2会議室

5・同好会連絡会 7月6日(月) 19時 104会議室

6・2015自然保護全国集会 7月11日(土) 12日(日) 青梅市

7・宮崎支部30周年記念式典、九州5支部交流 7月11日(土) 12日(日) 高千穂町

8・山岳4団体懇談会の開催 7月23日(木) 会場は別途

9・新旧役員・評議員懇談会の開催 日時・会場は別途

10・北海道支部50周年記念式典、北海道・東北集会 9月12日(土) 13日(日) 定山溪温泉

会議の終了に際して、森会長より、「現役員での理事会はこれで終了となる。この2年間、役員各位のご協力でなんとか役目を果たすことができ、皆様に感謝申し上げます」との挨拶があった。

平成27年6月20日 臨時理事会

議事録
日時 平成27年6月20日(土)16時00分

分 17時00分

場所 プラザエフ会議室

【出席者】小林政志、吉川正幸、大久保春美、山田和人、神長幹雄、佐藤守、勝山康雄、中山茂樹、野口いづみ、大槻利行、落合正治、山賀純一、星征雅、直江俊式、谷内剛各理事、平井拓雄、重廣恒夫各監事

【欠席者】なし

理事全員が、臨時理事会開催に同意したので、司会者より理事会開催が宣言された。

【審議事項】

1・会長の選出

互選の結果、会長に小林理事を選出した。(賛成15名、反対なし)

2・副会長・常務理事の選出

互選の結果、副会長に吉川、大久保、山田各理事を、常務理事に神長、佐藤両理事を選出した。(賛成15名、反対なし)

3・副会長の序列

会長不在等の場合における会務の円滑な運行を図るため、副会長の序列を吉川、大久保、山田各副会長の順とする。(賛成15名、反対なし)

【会長報告】

1・総務担当理事、財務担当理事の指名

新会長より、総務担当理事として佐藤理事、財務担当理事として吉川理事が指名された。

2・総務担当理事補佐の指名と常務理事会への出席について

新会長より、総務担当理事補佐として谷内理事が指名され、常務理事会への出席が要請された。

3・業務執行理事の分担案について

新会長より別紙の担当案が提示され、次の理事会で確定したいと報告された。

4・委員会、PT、WG担務の担当理事の指名案

新会長より別紙の担当案が提示され、次の理事会で確定指名したいと報告された。

ルーム目誌 6月

1日 総務委員会
2日 図書委員会 スケッチクラブ
3日 常務理事会 集会委員会
資料映像委員会 YOUTH CLUB

4日 緑爽会

5日 「山の日」事業委員会

6日 海外委員会

8日 総務委員会 スキークラブ

9日 山岳研究所運営委員会 九五会

10日 理事会 山岳地理クラブ

山想倶楽部

11日 自然保護委員会 フォトビデオクラブ

12日 支部事業委員会 ルーム検討WG

15日 総務委員会 資料映像委員会 図書委員会 スケッチクラブ

16日 00会 スキークラブ

17日 青年部 三水会 つくも会

18日 科学委員会 みちのり山の会 休山会

22日 フォトビデオクラブ

23日 デジタルメディア委員会

遭難対策委員会

24日 自然保護委員会 麗山会

25日 山遊会 スケッチクラブ 有志閑談会 学生部 01会

緑爽会

26日 自然保護委員会 山の自然

学研究会 総務委員会

29日 常務理事会 YOUTH CLUB

30日 総務委員会 110周年記念事業実行PT

6月来室者561名

会員異動(6月分)

物故

大賀壽二(3256) 15・3・6

三枝礼子(4285) 15・5・18

高島法男(5482) 15・5・13

門田嘉弘(5731) 15・5・17

藪田晴重(7764) 15・6・17

吉原龍介(8393) 14

浜田好子(11251) 15・5・13

倉地省吾(11633) 15・6・27

池田隼人(14538) 15・6・17

INFORMATION

インフォメーション

◆有元利通 富士山を中心とした山の写真展

期間 2015年7月3日(金)～7月31日(金)

会場 富嶽温泉 花の湯(富士宮市)

ひばりヶ丘805

TEL 0544-28-1126

入場無料

後援 富嶽温泉 花の湯、富士宮

岩田 修(15229) 15・6・15
中野有倫(15391) 15・5・31

退会

伊奈宏司(8031) 山梨

広野孝男(8374)

土屋末吉(8992)

井野千枝子(10088)

高田哲男(10173)

川畑和夫(11194) 福井

松元邦夫(11293)

天野陽子(12460)

亀井 準(13193)

齋藤勇二(15296) 東海

市、日本山岳会静岡支部

◆北ア・爺ヶ岳・烏帽子岳縦走 集会委員会

北アルプス全山縦走シリーズ第4回。北アルプスの隠れた名コースの爺・針ノ木・蓮華・船窪・烏帽子まで縦走します。

日程 9月3日(木)～8日(火) プラ

ス予備日1日)
集合 3日17時、大町近辺宿泊施設

行程 扇沢→種池山荘(爺ヶ岳往復)→針ノ木小屋→蓮華岳→船窪小屋→船窪岳→烏帽子小屋→七倉温泉

解散 8日昼ごろ、七倉温泉
費用 5万2000円程度(5泊分)

募集人数 15名
申込み 8月10日まで 清登緑郎

TEL 090-932518258

✉ syukai@jac.or.jp

参加者には詳細案内いたします。

◆チベット講演と懇親会(4回目) 海外委員会

チベット人が低酸素に強い本当の理由とは……古人類学が教える驚愕の事実。チベット・ネパール・天山・カラコルム・北極圏などで調査・研究。高所医学の権威・増山茂教授による講演と懇親会。

日時 9月5日(土) 14～16時
場所 日本山岳会ルーム

参加 講演&懇親セット1000円(学生500円)

定員 40名 メール申込み順(広く会員外も可能です)

申込み ✉ kjtjapan@kt@yahoo.co.jp
海外委員会・チベット勉強会・田口憲司

◆南ア・仙丈ヶ岳→北岳縦走 集会委員会

丹溪新道を経て仙丈ヶ岳に登り仙塩尾根をたどって北岳へと縦走。ポーコン沢の頭より嶺朋ルートを広河原に下る。

日程 10月1日(木)～5日(月) (プラ
ス予備日1日)

集合 1日18時 仙流荘

解散 5日13時半ごろ、広河原

費用 3万7000円位(4泊分)

定員 15名

申込み 9月10日まで 菊池武昭

FAX & TEL 03-399113611

✉ syukai@jac.or.jp

*申込み者に詳細案内いたします。

◆第19回森の勉強会(案内)

(東海支部、関西支部、京都・滋賀支部)

期日 10月24日(土)～25日(日)

場所 京都「花園会館」(臨済宗大本山妙心寺内)

宿泊 会議場と同じ「花園会館」

(先着30名)

日程 10月24日(土) 森の勉強会14

15時～受付開場 15～17時
講演「嵐山の景観はいかにして守られているか」京都府立大学・三好岩生先生18～20時
夕食と懇親会

10月25日(日) 現地見学7～8時
朝食8時30分
集合、嵐電にて嵐山駅へ。嵐山「内側から見る森の変化と景観保全」(現地案内・三好岩生先生) 下山後(14時ごろ)

天竜寺拝観(無料)

参加費用 1万6000円(24日の懇親会、宿泊、25日朝食、弁当、講師謝礼含む)。交通費は各自負担願います。

駐車場 24、25日2日間は花園会館に駐車可

申込み 参加者名、住所、電話番号等を明記しハガキ、FAX、メールのいずれかで左記へお申し込みください。酒井展弘(京滋支部) 〒617-0003 向日市森本町東ノ口15-13

FAX 075-92222102

TEL 075-92222102

✉ mt-sakai-ht-307@hera.eonet.ne.jp

申込み期限 9月20日(日)

受付後に会場案内等送付致します。

◆編集後記◆

●総会後の「山」は、掲載資料がたくさんあり、毎年増ページになります。これまでプラス4ページに収めてきたところが、今年は8ページ増えて28ページになりました。新旧会長の挨拶もあります。ほかの理事・監事からのコメントは来月号以降に載せる予定です。なお、今回の役員改正にともない、会報担当理事が神長幹雄さんになりました。旧担当理事の節田重節さんには、今後も校正・校閲などを中心にお手伝いいただきます。

●校了日の今日は、梅雨の晴れ間。この週末は全国的に天気がよく、山も大賑わいだったようです。このあとの台風通過後には、梅雨明けが待っているでしょうか。安全登山を心がけ、よい夏山シーズンをお過ごしください。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 842号

2015年(平成27年)7月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 小林政志
編集人 柏澄子
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社